

田園都市

岡町矯風會と其保護者○西村茂樹の修身講話と信用組合の設立○總務會と二十年會○竹原町の郷賢祠
 と頼高四郎○鹽谷志帥の竹原書院と校長の會宅○藤樹書院と「徳本堂」の勲績○篤志者の義舉と耐久學
 會○ラッド博士の人物と其感化○耐久學會の朝會と精神教育○一老婆一人の寄宿舎○金盞の家庭訪問
 と生徒の家事補助○倉敷の日曜講話○心學の開祖石田梅巖翁と其遺風

第十五章 我邦田園生活の精神 (下)三五六

農村の風氣と有司の指導○二六時中役場に起臥せる農村の村長○大田町に於ける銀行業者の篤志○無
 名の村長と其盡力○二百七十年來連綿たる大地主と小作人○農民の樂園たる家庭果樹園○慈善救濟の
 事業と篤志家の同情○佐藤信淵の廣濟館と種樹園○神社を中心とせる娯樂と後庭の踏菜園○寄場人足
 の制と佃民の訓育○積善組合と貯蓄共済の盛況○職工勞役者の救済に関する根本問題○家族主義の實
 を擧げたる伊藤工場○至福なる自治と團體各員の協同○化粧料の寄附と風來橋の立札○北小國村有志
 會の活動○精農地表彰の標木○婦人會と善行表彰の事業○小學校職員の同情會と貧兒の保護○兒童文
 庫と戦役記念室○小學校の基金と素封家の美事○小國村の餘慶會と先人の表彰○小豆谷の險路と杉平
 作樂の義舉○忠女ツツの美談○篤志なる僧侶の遺書

目次 畢

田園都市

第一章 田園都市の理想

念ふに一國蔚興の進運は、必らずや中に充ちて外に溢れ、小を積んで大を成す
 にあらずんば、以て全般の發展力を鼓振するに足らず。是の故に稱して都市改
 善の問題といひ、農村興新の問題といふも、歸する所は必竟一國の内容を精整し
 て、國家繁榮の基石を固うすべき實地の問題に外ならず。殊に近世紀に入るや、
 都市の發達は月を累ね年を逐ふて著るしく、一國文明の精華繋りて此に在りと
 せられ、泰西の諸國は一時殆んど全力を之に集注したるの觀ありき。都市は爲
 めに益々勃興して其規模愈々擴張せられ、人口の如きも都會の大なるに隨て増加の
 速力も亦殊に甚しく、市政學者の所謂「人口積聚」を來して、都會生活の弊も亦益々劇

一國の發展力
 都市の改良
 農村の長

甚ならんとす。加ふるに一時風潮の促がす所、農民等の相率ゐて住み馴れたる田園を去り、競ふて都市に密集せるが爲め、農村も亦將さに衰頹の兆を呈せんとす。是に於てか泰西の識者も漸くにして昨非を悟り、近くは一轉して農村興新の要を唱ふる者踵を接して輩出し、所在相呼應せざるなし。都市を重んぜんか、將た農村を主とせんか。二者共に一得一失あるを免かれずして、其一に偏重するは即ち其一を曠廢せしむるに外ならず。泰西の諸國は爾來幾多の實驗を経て、此等の問題を講究すること既に多年、最近に及びては、竟に兩者の均しく忽がせにすべからざるを認め、都市農村の兩者必らず相須つべきことを唱へて、茲に二者の複本位論を生じ、中央と地方とを通じて、一齊に全局の進暢と相互の調和とを完うするをば、一國興新の第一要義と爲すに至りぬ。

泰西諸國に於ける最近の趨向や、此の如くにして既に一進轉をなせり。都市農村に亘れる最善の本務如何の問題は、今や最も趣味多き民政の一問題として、上下の齊しく留意する所となりぬ。就中都會生活の短を補はんが爲め、都人を郊外の地に移して、新に農村の要素を交へたる新團體を作らしめんとする如き

都市農村の複本位論

最善の都市農村問題

は、正しく最近の理想たるを失はず。是れ所謂『花園都市』の新計畫にして、往々花園菜園を中心とするが爲め、世人は又之を『花園都市』ともいへり。都會生活の宿弊を救ふは、此の如くにして其緒に就けり。されど現在の農村に對しても亦活氣を興へ之をして清新の面目を發揮せしめんが爲め、更に一段の工夫を加ふるは、固より同一の要務たるを失はず。若し一町村より千町村、萬町村に及びて、等しく健全醇美の共同生活を遂げしむるあらば、天下の慶固より之に尙ふる者なかるべし。農政家の所謂『模範農村』若くは『新農村』と稱するものは、皆此趣意より來りしなり。『花園農村』は即ち之が最新の一模型にして、夫の花園都市に於けると一般、其創始者が花園菜園を基點として、農家の排列を整へんとするが爲めに其名を得たり。殊に二者何れも精神と事業との根本よりして之が改良を促がし、最善の都市、最善の農村を作りて、地方全般の實狀を改め、之をして均しく新生活の端を開かしめんとするは、全く其揆を一にせり。都市膨脹の問題并に農村改良の論議は、近く我邦に在ても、亦漸やく盛ならんとす。されば今日に於て先づ此等の諸問題に注意し、一國進暢の原動力たる都市農村の兩者に就て、泰西

最善の都市農村の急務

諸國の趨向如何を知悉するは恐らくば刻下の一要務たるべし。

英國土木工學協會の一員たるセンチットは、近く『田園都市』なる一大冊子を著して、詳かに都市農村の調和に對する各種の新經畫を叙述せり。其理想とせる所二あり、清新なる農村の趣味を活用して現都市を改良し、又は新都市を造りて、大都會に免れ難きの弊風を絶たんとすること其一なり。健全なる田園生活を尊重して、之に加味するに都市各般の文明事業を以てし、益、農村の培養と其改良とを圖らんとすること其二なり。蓋し所謂『田園都市』竝に『花園農村』の第一先驅をなしたるは、是より先き千八百九十八年『田園都市協會』の理事英人エベチザ、ハワードの主唱に依り、チョコレート製造者たるカドバレー、石鹼製造者たるレバー等二三屈指の工場主が相協同して、之が實行の端緒を開きたるに創まる。當時ハワードを擧げて事務長となし、之が管理の下に事業を開始したりしが、先づ倫敦を距ること、汽車の行程約三十四哩(十三里餘)の地ヒッチン村の近傍なるレッチウオースに就きて、三千八百十八エーカー(千五百九十町歩)の地を購ひ、或は菜園、花園、運動園、浴場、遊泳場等を作り、或は學校の外更に圖書館、音樂堂等をも

「田園都市」
「花園農村」
の圖部

設け、或は共同組合、俱樂部の類を組織して、茲に田園生活を中心とせる清新の市民生活を遂げしめんとしたり。爾來此舉に倣ふもの、前後相應じて起り、此種の新經畫に對して資金を供給し、其他各種の聲援助力を興ふる會社團體の類も、亦漸く饒きを加へり。隨ひて之が研究者も漸次に輩出し來りて、之に關する研究の領域も自から爲めに廣汎となれり。殊にセンチットの如きは、弘く自治生活の要件たる一切の公共事業に亘りて、事の民育に關すると殖産に關するとを問はず、其公益を進むべきものは之を究めて剩す所なし。殊に各人をして勤勞自助の風を興さしめ、貧富相和して互に協同推讓の道に出づべきことを反覆し、其説く所甚だ慇懃なり。住居を改善して家庭を齊ふるの法も、亦民生の休戚に關係すること極めて大なりとして具さに之を叙し、更に進んでは共同組合を普及して、平素に於ける相互の保護を計らしめんとし、殊に窮厄に處すべき賑恤の業に至りては、先づ救貧防貧に分て、之が本末を闡明するにも亦、極めて斬新の著想を有せり。其他延いては閑暇の時を利用すべき有益なる娛樂事業より、各國に行はるゝ節酒矯風の施設に説き及ぶの一段に至るまで、具さに其要を竭して

「田園都市」
「研究問題」
の生一

都市の
農村の
建設

到らざるなし。殊に田園生活の趣味を世人に了解せしめんとして精緻流麗の筆能く田野の風光水色を描き天然を友として花園農圃に逍遙するの感興を叙すること殆ど餘蘊を遺さず。都市に於ける人口密聚の諸弊を極論しては『浮薄にして懦弱に傾き易き都人士の増加は國家の存立を危くす。趣味最も清新なる農村を其間に建立するは、恰かも滔々たる一世の濁流中に巍然たる巨巖の屹立して之を支持するにさも似たり』と痛言せり。其説く所や、獨り新都市、新農村を造らんとするもの、典證に供すべきのみならず、現在の都市農村を改良せんとするに當りても亦固より研究の資料とすべきもの多し。

本書の
編纂

然れども茲に此等の新問題を世人に紹介せんとするに當りて、單にセンチツトの所説を紹介するに止むるときは、固より研究の尙未だ盡さざるもの多きを怕る。因て之に關聯して更に廣く歐米市邑の事業を示さんことを期し、聊か泰西識者の所論を涉獵して、弘く諸般の材料をも集め、茲に『田園都市』一篇を成せり。隨ひて名は單に『田園都市』といふも固より市政の問題、工場生活のみに限らず、他の範たるべき良農村の事績をも亦併せて之を叙せり。何となれば理想の都

市、理想の農村如何を究はめ、最善の自治を行はんか爲めに必要なる一切の事業に説き及ぼすは、即ち本書の目的に外ならざればなり。されば農村と都市とを通じて之が改良と進歩とに有益なる諸般の施設に亘りて、茲に之を説明せんとなす。殊に都市農村兩者の特徴を存して、各本然の美を發揮し、長短相補ふて互に醇美の自治を遂げしめ、兩者相須つて共に國運の發揚に資せしめんと期するは、是れ即ち本書の主旨とする所なり。

都市の
農村に
於ける
光景

今都市と農村とに就きて之が生活の状態を比較するに、何れの邦國に在ても其差異や頗ぶる著しきものあり。工業地區を蔽ふの煤烟は事業の殷盛に伴ひて益々都市の天空を掩蓋し、之をして朦朧たる淡暗色を呈せしめ、都人の大半は擧げて塵埃を混じたる、不潔汚濁の空氣を呼吸せざるなし。蒼白憔悴の顔色を帯びたる同胞が工場内の敗れたる煖爐を擁じつゝ、互に罵り合ふの有状は、亦殆ど人間の光景とも思はれず。されど若し此くの如き陰鬱四閉の都市を去りて、一たび郊外の農村に出づれば、何人も全く別天地に開放せられたるの感なきを得ざらん。一望是れ天然の活畫圖、一として悉く清鮮の風致を帯びざるなし。見

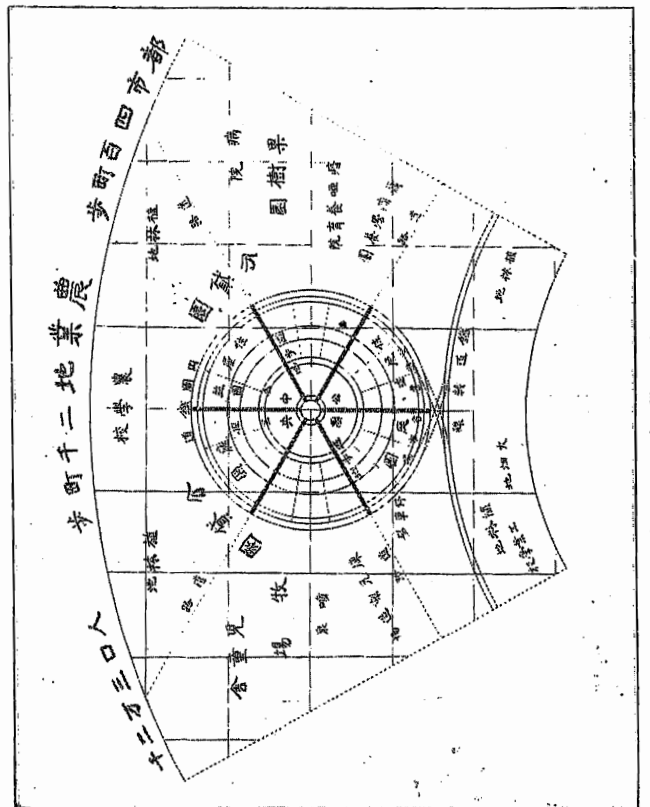
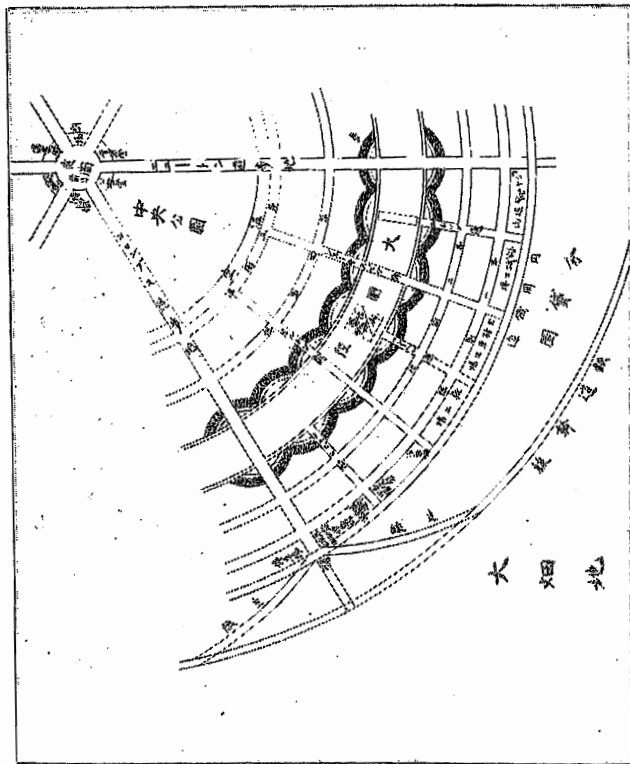
田園に
於ける
光景

渡す限り香ばしく匂へる青緑の色彩、美はしく隈なく輝ける日光野の末森の端までも續ける天の光雲の影、さては飛び交ふ鳥の姿までも、皆是れ都會に見慣れざるの光景なり。枯草に宿れる月影、水晶國土と見まがふべき雪景なども、都會連疊の下底に在ては、絶へて見ることも能はざる所、況んや貧民窟の如き曲街陋巷の中に於てをや。若し同じく自己の額に汗して各、其勤勞に従ふにも、此の如き美はしき天地に身を置くあらば、寔に人世の幸福にして又人世の至樂にあらずや。

抑、人は聚合性を有す。是の故に都市の生活は、常に多數の民衆を吸引するの力あり。されど一たび群がりて一小區域に密集し、多數更に相會して大聚落を作るときは、其空氣を悪しくすると等しく、風紀をも亦之を悪化するの虞れあり。目に睹る所は、屹然たる高さ工場の壁にあらざれば、層々相累ると恰かも蜂巢に似たる合壁數十の裏家なり。何物かそれ能く人心を長閑ならしむべき。詩人ラスキンはいへり『人の世に在りて最も助けとなるべき最も神聖なるの事業は、人を訓育するに在り。訓育は單に彼等をして一人にても多く善に向はしむ

塵風のけ都市に於ては、俗塵の散空に類と氣

の育庶民の善導方法



るのみならず、又一人にても多く其業に樂ましめざるべからず。彼等を善に導き且之を樂しましむるの手段方法は、各自職業の分に應じて天與の真情を發揮せしむるに在り。彼等をして家庭の眞趣味を解せしめ、又勤勞に依りて生活の餘裕あるに至らしめ、平和と文明との進歩に隨ひて、常に恒心あり又先見ある獨立の生計を營ましむるには、唯常に自然界に接し、又之を愛するに至らしめんとを要す』と。此の如き健全の生涯は、決して之を都市街衢の間に發見すること能はず。さればセンチットはラスキンの此語を引き來りて、『田園都市』の天然を本位とせる清新の趣味を供給するをば、人生の幸福を増すべき一の要義となせり。夫れ都會の生活は、二六時中を通じて、總べて鬭争の生活なり。歐米の都市に在ては、殊に甚しきものあり。されば西人常に言へらく『都市の裡には何等眞率にして且無邪氣なる光景を見ること能はず。古代の美風と古來の作法とは、全く此に消滅し去れり。心からなる誠の言、眞實詐りなきの語をば、人の口より聞くこと鮮し。外には假面假裝を被りて、内常に寧靜ならず、晝となく夜となく、衣食に逐はれて、心中亦常に不安の念を抱きつゝ營ふとして四方に奔走す。殊に工

業の繁昌に伴ひて、労働者の如きも、各自此不安の念を慰めんが爲め、飲酒僅かに悶を排して、沈湎爛醉の悪習を醸し、清新の氣風は爲めに殆んど其跡を絶ちて、唯最も質素淳朴なる食卓の周邊に見得らるべき、薔薇色の顔色などは、此の如くにして、今や都人士の鉅宅にも陋巷にも、總べて之を發見し得ざるに至りぬ』と。其言、少しく矯激に失すといへども、顧みて、泰西都市の趨向を諦視するに、亦固より之に類するものなきにはあらず。

是の故に田園都市の研究者たるセンヤットは、深く此に憂ふる所あり、『唯之を實驗したるの人にして、始めて眞理を發見し得べし』との格言を援き、既に最新の樂園を創設したるハワード、並に人口一萬を基礎として、標本都市を作るの設計を立てし、バツキングムの如き、『田園都市』『花園農村』の創立者、具案者を賞揚して措かず、極力民生の此惡境遇を一轉せしめんとして、言ふ具さに懇切を盡くせり。念ふに此等諸人の始めて田園都市を研究し創設したるは、全く都會生活に免かるべからざる必至の病患を救濟せんとするにありき。今夫れ病患の治療を以て之を論ずれば、重病には殊に特種非常の手術を施すべしと雖も、其他幾多の病

樂園の創設者たるハワード及びバツキングム

症に至ては、健康の回復を以て第一義とすべきか故に、自然の營養力を得せしむるが、即ち治療の要訣たるべし。かくて苟くも一たび健康の狀態に回復するあらば、之に依りて獨り其病を防ぐべきのみならず、更に進んで竟には其病根を絶ち得るに至らん。田園都市の計畫者は、實に此種の一大醫術を施さんと自任せり。是の故に當初は頗ぶる批難を受けたりしも、而かも治療の一たび着手せらるゝや、先づ生命の中心點たる心臟をして元氣を復せしめたりしが故に、爾來清淨なる血液は、間斷なく全身に充滿して、此醫術を受けし地區のみは、自から一切の諸病を一掃し得るに至りぬ。是の故に、『田園都市』『花園農村』の新設計新經畫は、實に文明國に附帶して當然起り來るべき各種の諸病症を治療するに最も的確の新醫術なりと謂ふべし。此の如き新醫術に關し、センヤットは其著『田園都市』の序に書して言へり、『盛夏炎塵高く揚がるの日、嚴冬凍霧深く閉づるの時、都市巷衢の一區寰に跼踏し營々として衣食の急需に趨り、亦絶へて山川林野等天然の美に接するの機會だになき多數の市民に在ては、田園都市なる一箇の名稱は、それ如何に快よく彼等の耳底に響くべきか』と。實にや煤烟濛々たる裡に、醜

文明國の救済すべき新醫術

として其生活を送りつゝあるものに對しては、田園都市の計畫如何を知らしむるだけにて、亦實に一服清涼の靈劑たるべきを疑はず。

按ずるに田園都市の思想は、千八百九十年米人ベラミーが都市住民の腐敗と墮落とを慨し、之が救済の目的を以て『回顧』と題する一小説を著したるに胚胎せり。ハワードの一たび之を讀みて、爲めに無限の感想に打たるゝや、爾來腐心すること凡そ十年、遂に千八百九十九年に至りて、小説『明日』の一篇を著し、都會に於ける人口の密集を防がんが爲には、須らく農業地を中心として、新都會を建設すべきことを主張せり。かくて田園都市の名稱は漸く人口の膾炙する所となるに至りぬ。

抑、多數の民衆が相率ひて同く一所に集中するの實狀を呈したるは、中古封建の時代に始まり、専ら一致協力して外敵の侵攻に當らんが爲めに外ならざりき。然るに近代に至りては、商工業の勃興と交通機關の發達とは、共に急劇の變革を來たさしめ、二者相俟て、益々人口聚積の趨向を大ならしめたり。而かも此趨向は近時に至りて愈甚しきを加へぬ。夫の英蘭の北境ウエスト、モルランドの如き

田園都市の歴史
小の

人口の弊害
其の

に在ては、人口僅かに一平方哩(十四町平方)八十二人を算するに過ぎざるに、其首府たる倫敦市に在ては、一平方哩實に三萬八千人の多きを算す。若しかゝる勢を以て抵止する所なからんか。都會には終に尺寸の土地を餘さざるに至らん。殊に是等人口の密集せる都會に生活せる市民就中労働者の生活状態如何と查察するに、轉々寒心に堪へざるものあり。試に人口の最も稠密なる倫敦市の労働者に就て之を觀なば、何人も必ずや其甚しく意外なるに一驚を喫するならん。今や倫敦全都の人口は無慮六百萬を算し、其割二分に當れる七十二萬人は、何れも陋巷矮屋の間に雜糅して、一室に二家族以上が相互に同棲をなすの實況を呈せり。更にマンチエスター市の實例を見るに、人口密集の弊害殊に驚くべきものあらん。嘗て同市に新兵徵募の事あり、因て市民の體格を檢查したるに、應募者一萬一千人の中、合格者僅かに三千人を得たるに過ぎざりしは、豈に意外の現象にあらずして何ぞや。英蘭の一州にして人口の最も密集せるダラム州の如きに在ては、爛醉者を觀ること最も多しとせられ、セツフィールド市の如きは、飲酒の爲め疾病に罹りて死亡するもの實に全死亡數の四分餘に上り、英全國に

倫敦市民の健康状態に於ける弊害

健康状態の弊害

南ア遠征軍の死亡率を有する街衢は、已に十一街の多きを算へ、其數や恰も南ア遠征軍の死亡率に相當せることは、統計の明示する所なり。泰西有名の一經濟學者たるトムソンが其著『家屋問題』に於て、勞働者酒精の暴飲、心身の羸弱、疫病の蔓延等に就きて、之が原因を擧げ、何れも人口密集の爲め、自から此傾向を來せりとなし、もの亦故なきにあらず。

人口の過剰と家屋の不備

於ける死亡率の二倍に當ると云ふ。バーミンガム市に在ても、千人に對して十三人乃至四十二人の死亡率を有する街衢は、已に十一街の多きを算へ、其數や恰も南ア遠征軍の死亡率に相當せることは、統計の明示する所なり。泰西有名の一經濟學者たるトムソンが其著『家屋問題』に於て、勞働者酒精の暴飲、心身の羸弱、疫病の蔓延等に就きて、之が原因を擧げ、何れも人口密集の爲め、自から此傾向を來せりとなし、もの亦故なきにあらず。

人若し一たび倫敦市の貧民窟と稱せらるゝ東倫敦に到らば、必ず先づ其煤烟に黒める家屋と、狹隘不潔を極むるの街路とを見ん。若し更に一步を進めて、其内部に伏在せる諸種の罪惡と、不道德との實狀を知悉せば、何人と雖も必らず彼等貧民生活の如何に悲慘なるかに慄然たらざるはなからん。是を以て嘗に英國のみならず、歐米諸國の各都市に在ても、近ごろ人口の過剰と、家屋建築の不備とに原因せる、諸種の弊害を除かんとして、百方苦心する所あり、英國の如きは最も心を此點に用ゐし爲め、千八百九十一年より千九百一年に至るの十箇年間に在ては、英蘭及ウエールズに於ける一室貸の貸屋は、九萬二千戸より遞減して六

歐米諸都市に於ける家屋の不備と改良の効

國民體と方田園都市の建設

萬六千戸となり、且是等の貸屋に群居せる勞働者は、三百二十五萬より二百六十六萬に減少せり。其他の都市に於ても、亦到處細民の爲めに巨額の費用を抛ちて、衛生に適せる家屋建築の擧に出でしも、是等陋屋の一方に除去せらるゝや、他方に於て亦更に密集せる部落を現出し、此方に除けば彼方に再現し、かくして建築せられたる家屋は、層を重ねて相櫛比し、空氣の流通を妨げ、日光の透射を遮斷して、一エーカー(四反十八歩)に對する平均人口も今や亦以前に倍獲し、其弊害や擧げて言ふべからざるものありき。されば夫の有名なる「チョコレート工場」の所有主カドバレーは、千九百一年の市報に論じて言へり、『倫敦及其他の都市に在ては、何れも細民の家屋を改良せんが爲め、新たに大規模の建築を計畫しつつ、あれど、此の如きは畢竟新たに裏店を増加するのみにして、甚しき誤認たるを免かれず。吾人は根本よりして國民の體力を増進せしめんと圖らざるべからず。殊に豫じめ低廉なる土地を購入するは、固よりさまでの難事にあらざるが故に、倫敦及其他の都市も、亦須からく此方針を採りて、田園都市を建設せんことを望むや切なり』と。トムソンも亦更に其著書に切論して言へり、『倫敦市に於ける

所謂模範家屋と稱せらるゝものに住居しながら、熱病又は肺病の爲めに生命を殞すこと、寧ろ倫敦市の貧民窟に於ける死亡率よりも多數なるの事實あり。嘗て倫敦市に於ては十五エーカー六町餘の土地に五千七百十九の人口を移殖せしめんが爲め、二百八十萬圓を費し、バーミンガム市に於ては、四十五エーカー十八町二反餘の土地に、六千五百人を移住せしめ、新たに家屋六百五戸を築造せるが爲め、費用五百五十萬圓を要したりといふ。而かも此の如き多額の金圓を投じながらも、其効果極めて鮮少なるを免がれざりしのみならず、却て反對の現象を呈したるは、實に悲むべきの至りなり」と。

英國の統計學者 ロングスターフ は、市民の光景を描くに悲觀の文字を以てせり。曰く「狹隘なる胸膈、蒼白なる顔色、及視力薄弱なる兩眼、脆惡なる口齒を有するの市民は、國家擁護の民としては、固より不適當なり。彼等は力行して其業に當るの忍耐力あるとなし」と。米國の大學教授 ウエーバー の曩に『都市膨脹論』を著はすや、先づ市民の體質が漸次に衰弱する所以を究はめ、之に關する諸般の學說を集めて、竟に『今の倫敦人を見るに祖父よりして父、父よりして子に亘り、三代

三代の住民相續の例
實き倫敦の

相繼ぎて市中に生れたる者を發見し難し」との論結を爲すに至れり。家屋建築の事業が各地の都市に勃興したるも、實は是等の諸弊を極はんとの爲めなりしなり。倫敦市に於ける『ビーボデー』慈善資金、ダブリン市に於ける『ギンチス』館、リバプール市に於ける『職工長屋』及紐育市に於ける『市街及郊外建物會社』等の如きは、皆家屋の改良を目的として起りしものにして、是等の施設は概ね識者の考案に成れり。されど貧民窟に伏在せる諸種の弊質や、もと極めて根柢の深きものあり、たとひ此等の施設を以てするも、全然之を蕩除せんことは、尙ほ頗ぶる難を免かれず。蓋し救貧は末にして防貧は本なり。其本にして立たずんば、何ぞ其末の完きを得んや。是の故に都會に於ける人口密集の弊害をば、根本より救濟して、貧民の生活状態を改善するにあらずんば、固より社會上に於ける彼等の地位を進むること能はず。ハワードの苦心せる田園都市の計畫は、實に此目的を達すべき恰好の施設たり。

近時商工業の勃興は日に益甚し。是に於てか地方の農村も亦此勢に壓せられて、漸く衰頹の傾向を呈するや、菜圃麥圃の間に在りて、自然の風光を樂める農

費の田園都市と生活の施設

農村の移住の例

民すらも、往々鋤鋤を抛ちて父祖以來久しく住み馴れたる楽しき郷土を捨て、競ふて都會に移住する者益多きを致せり。而かも彼等が一たび農村を去るや、其耳に聽く所は、田間野水の樂譜にあらずして、耳を聳せんばかりなる工場汽笛の吼聲是なり。眼に映するものは、果樹菜園の美にあらずして、煤烟に蔽はるゝ煉瓦の障壁のみ。殊に彼等が營業として勞働する工場には、一毛の綠色すら之あることなく、滿目悉く殺風景を極むるが上に、茲に一日の勞働を終りて、漸く其家に歸るも、僅かに膝を容れ得るに過ぎざる陋巷の一小室には、蓬髮垢面の妻、敝衣跣足の兒を見るの外、更に彼等終日の勞苦を慰藉するに足るものなし。彼等が流汗に塗みれ、終日勞働して得し所を擧げ、一夕の飲酒に投じ盡して敢て恠しむるは、事甚だ憐むべくして、又實に止むを得ざるに出づ。田園都市の理想とする所は、即ち此都會生活より起れる不快と苦痛とを防遏せんとするに在り。

此の如き清新なる理想に基きし田園都市も、ハワードの始めて之を唱へし當時に在りては、亦一人の耳を傾くるものあることなく、時の宰相グレイ卿の如きも之を目して一の夢想に過ぎずとなせり。されどハワードは獨り確信して疑

田園都市の理想

田園都市の理想

はず、自から不撓の志を聲明して言へらく、『真正の理想は一粒の種子なり。發芽の潜勢力は常に其核子に含蓄せらる。土壤の耕作にして若し宜しきを得んか、何れの時か嫩芽を發せざることあらんや』と。其毫も人言を意に介せざるの勇や、最も稱すべきものあり。居常一に眞理と正義と平和とを以て、經畫の基礎となし、『田園都市』を其上に經營せんことを期し、此目的を達せんが爲めには、至誠、博愛、聰明の三者に俟つの外なしと提擧し、是等の諸徳に依て人々各自の力を協はせ、詩人ダクネスの所謂民衆を率ゐて更に善美の樂土に躋る』の覺悟なかるべからずとなせり。今にして當時を顧みれば、英國の輿衆も、必らずや爲に慚愧の念に堪へざらん。爾來堅牢の思想を基礎とせる此計畫は、毫も世人の嘲笑に屈することなく、着々として到る處に成功し、獨り英國に於てのみならず、獨逸、伊太利よりして、遠くは太平洋を距て、今は亞米利加にまでも普及せり。近くはバルビールに在て、田園都市成功の祝賀會を擧ぐるや、グレイ卿も亦招かれて其席に在り、深く前言の非なりしを陳謝して曰く、『曩に一片の夢想郷として誹謗せる田園都市が、今日かゝる成功を奏するに至りしを見ては、深く自己の不明を恥ぢ

眞理、正義、平和を基礎とする田園都市

田園都市の成功を陳謝する

ざるを得ず。されど國家の爲めには寔に慶賀に堪へざる所なり」と。一個の夢想が竟に現實の樂園として成功を博するに至りしは時運の然らしむる所とするも、亦實に首唱者の堅忍不拔能く其主旨を闡明にし、又其經營に盡瘁したるの賜なりと謂はざるべからず。

然らば則ち田園都市は果して如何なる施設に出でたりしか。其主眼とする所は、先づ労働者の家族をして、清新和樂の家庭を組織せしむるに在り。されば其住む所をして、殊に空氣の流通と光線の透射とを十分ならしめ、且附するに數畝歩の庭園を以てし、彼等をして勞務の餘暇には、出で、此に農藝を習はしめ、一には之に依りて各自の健康を保持せしめ、一には其收益を擧げて生計の幾分を補助せしめんと圖りぬ。地を卜すること亦山野樹林の勝景に富める近郊の區寰を以てし、四周の光景と風土とをして、總べて彼等の健康と衛生とに適せしめんと勉め、更に公會堂、俱樂部、美術館等をも設けて、一般に品位ある娛樂の趣味を進めしめんと期せり。就中彼等の子女をして、田園生活の趣味を覺知せしめんが爲めには、幼年の時より夙に自然の美に接近するの機會を得せしめんとして、

田園都市
の清新和樂
の家庭

自然の美
の趣向
の設備

最も其力を致せり。ハワードが其著『明日』の一篇に描き出せる田園都市の精髓とする所も、亦實に茲に存せり。

田園都市の理想とする所は、此の如くにして都會の利便と田園の趣味とを調和するに在り。随ひて此調和を實地に完全ならしむるは、其第一義とする所也。是の故に計畫の初めに當りては、先づ主として家屋の數箇所を點在するを避け、之を一區劃又は一街衢に聚合せしめて、上水下水の兩事業にも、總べて全體の利便を稽へ、成るべく少額の經費を以て之を經營するの設計を立てたり。されば此目的を達せんが爲にも、先づ其土地をして工場管理の一會社又は一私人の所有に歸せしめ、從業者に對して之を實行せしむるの要あり、而かも其會社又は一私人が之に依て各自の利殖を計ることなく、一に居住者の利益を圖るを主眼とすべきや、固より言を俟たず。是を以て先づ一定の土地を買收し、之が大部分を開きて、之を農耕の場に供せしめ、居住者の私有地としては、一人少くとも五エーカー、二町歩を下ることを得ざらしめ、且中央部を劃して、市街地ともいふべき箇所を充て、一般に家屋の建築には、總べて空氣と光線との流通を十分ならしめ、各

田園都市
の理想
の調和

人をして等しく四周庭園の美を樂ましめ、休養に適するの土地、並に道路等には、擧げて樹木を植栽し、而かも之をして四邊の眼界を遮らしむることなく、都會何れの場所に在ても、能く廣濶なる遠邇の光景を眺望することを得せしむるの考案を盡せり。工場地位は之を鐵道に接近せしめ、圖書館、會堂は、總べて最も利便の地を選んで之を設くる等、其設計や寔に精緻周密を極めり。

田園都市の理想
トモの理想

田園都市に忌むべきものは、人家の稠密に在り。之を防がんが爲め、セントラルは家屋建設地の建坪を制限して、少なくも之を全地積の六分一に止めしめざるべからずとせり。此の如くにして各自に小庭園の圍遶せる新築の家屋を供し、之が住民をして賃料の低廉なるに比し、極めて良好の家屋に棲息することを得せしむ。是れ其一特色とせらるべきものたり。殊に工場を其附近に置くが故に、遠距離の工場に通勤するの要もなく、隨ひて身體の疲勞を感ずること少なく、加ふるに時間を節するの利あり。且や家賃の低廉なるが爲め、自から餘剰を生ずべく、鐵道に接近するの地を擇ぶが爲めには、更に電車賃又は汽車賃を要せざるを以て、多少の貯蓄を爲すことを得べし。隨ひて時間の餘裕を生ずべきが

故に、之を利用して自己の菜園を耕し、併せて其餘業を營むことを得、且其所得も亦蓄積して、以て他日の用に供することを得べし。殊に廉價を以て蒸氣力、電燈及淨水の供給をもなし、又豫め適當の空地を求めて、茲に遊歩場を設け、隨意に之を使用せしむるが故に、利益の大なること、之を尋常の都會生活に比すれば、其差や營に霄壤のみにもあらざるべし。

近時社會問題の重視せらるゝこと亦往日の比にあらず。中に就きて所謂家屋問題、飲酒問題の如きは、蓋し其最たる者なり。されど田園都市の理想にして、若し能く實現せられんか、總ての社會問題は悉く茲に解決せらるべきを疑はず。田園都市は先づ家屋の整善問題に對して、好箇の典例を示めすべきものたり。更に飲酒の節制問題に對しても亦、絶妙の解決を與ふべきものたり。蓋し飲酒の弊害を醸すは、労働者が其家屋に在りて、夕餉の膳に晩酌數杯を傾くるの時にあらず、寧ろ旗亭に相會して暴飲するに起因するもの多し。然るに田園都市に在りては、各自の結合力亦極めて鞏固にして、何れも團體の和親を主とすべきが故に、彼等は互に相警めて酒亭の濫設を防遏すべきは、もと自然の傾向たるべし。

家屋問題
田園都市

轉じて之を會社又は工場の方面より觀察せんか。勞働者の生活狀態にして改善せられ其健康にして上進せんか其効果は直接に勞働の成績に表はれ功を收むるの大なるべきや亦疑を容れず。

抑國家をして健全なる發達を爲さしむるは、究竟するに國家を組織する人々の性格如何の問題に歸着すべし。さればセンヤットは其著『田園都市』に於て極力之を切論し、且言へらく『世人動もすれば人生の今日ありて明日の料かられざるを説き、其生あるの間、須からく酒食の慾を恣にして其日を送るべきとを唱ふるものなきにあらず。されど若し此の如きの心を持して、徒らに今日を送る者、益、國民の多數を占むるに至らば、其國家は果して如何に成り行くべきか。之に反して最も自助心の發達せる國民に在りては、一人と雖とも亦此の如き卑俗の所言に耳を假すべくもあらず。就中望を繫くべき國民に在りては、其有らん限りの力を盡して、社會の進運に後れざらんことをこれ務め更に自ら先んじて社會の先頭に立ち以て其進歩を圖らんことを期せざるはあらず。人の此世に處する、馬んぞ罅の如く徒らに醉生夢死して止むべけんや。田園都市の計畫は今や

健全なる
國家の
性格と
國民の

自助心の
發達の
國民の
性

吾等の乘すべき好機に際會せり。夫れ時は得難く機は失ひ易し。吾等は今の時に於て須からく奮發精勵、全力を擧げて現世に盡し、更に後世に盡して長く其効果を貽さんことを期せざるべからず』と。されど彼れセンヤットは徒らに其言辭の壯なるを銜ふにあらず、又放論以て一時の快を買はんとするにもあらず。されば緒言の後段には更に壯重の辭を以て、諄々其同胞に勸説すらく『吾等にして一たび美はしき新都市新農村を造るを得んか、之を實務の方面に見將た又博愛の方面より見るも、之を中心として廣大無限の感化を世に興ふるは亦必ずしも難しとなさず。若し世の識者は言ふまでもなく、有志の人々等も、亦能く力を竭して之を助成し、之を指導するあらんか。數年ならずして全國を擧げ、必ずや觀るべきの好結果を奏するに至らん。唯最も注意すべきは、計畫の初歩を慎しむに在り。若し卒然として都會の人士を新農村に送り、茲に烏合の團體を造りたらんには、必ずや精神の結合を完うし得ざるべし。若し其精神にして自助の一點を缺くとあらんか、事業の成功を望むは寧ろ不可能の事なるべし』と。知るべし、理想の都市、理想の農村には、之が成立の根本に於て、如何に自助心を必

新都市
何の感
無化

自助心の
發達の
事業の
精神

要とすべきかを。セイヤットも亦世人の往々にして事功を収めんとするに躁急なるを戒め、詩聖ミルトンの一節を援き來りて、懇ろに其同胞に諒げらく『吾等は計畫の事業に向て、直ちに成功を得んことを求むべからず。永遠不朽の業は、實行の苦心に於て、已に幾多の樂みを有す。事業の成功其ものを以て、之を全部の樂みとなすべきにあらず。譬へば遠く赫耀たる光明を天の一方に望むが如し。必ずしも直に之を己の手に收めざるも、之を取らんとして進むときは、樂も亦其中に在り。善の酬は善の果を得て、始めて眞の酬ありとすべきにはあらず。善を行ふ其事已に無限の趣味あり、是れ即ち善の最も尙ふべき酬ひならずや。善に善果あるの故を以て、善もと善なるにはあらず』と。固より片言隻語に過ぎずと雖も、箇の中自から人道の極致を含蓄するものあり、味ひ來らば殊に清泉萬斛の湧出するを覺ゆるあらん。

第二章 田園都市の範例

田園都市の一たび英國に唱道せられて、竟に歐米列國の最新問題たるに至りしは、全く機進の促がす所に外ならずと雖も、又實に首唱者ハワードが夙に『英國の時弊を濟ふの事業』全く之に外ならずと自信し、能く一世に率先して時弊救治の最新理想を提擧し、同胞をして適從する所を知らしめたるの賜なり。初は一片の空想として見做されし此經畫も、漸次識者の承認する所となり、之を實行するの時機も亦漸く熟し來りしかば、竟にはハワードの發起に基き始めて『田園都市協會』なるものを設立するに至れり。是れ實に千八百九十九年の事に係りぬ。其後此種の研究に従事するものも、前後陸續として各地に輩出し、協會も亦各地に勃興して、或は講演に、或は文筆に、之が思想を鼓吹し、之が設立を獎勵すること、殆んど到らざるなし。

當時ハワードの考案に成れる田園都市の設計を見るに、ハワードは先づ大體之を市街地と工業地とを含める村落及農耕地の二地帯に分ち三萬二千の人口

田園都市の設計と時弊の救濟

ハワードの田園都市協會設立

を此に移住せしむるものとして、六千エーカーに二千四百餘町歩の地をとり、内千「エーカー」四百餘町歩を市街地に充て、他の五千エーカーに二千餘町歩を農耕地に充つるの計畫を立てぬ。内部の施設としては圓形の地帯を劃して新農村となし之が中央に就きて、先づ五エーカーに二町歩餘の花園を設け之を遶りて公共の音楽堂、圖書館、劇場、博物館、公會堂、病院等を建設し之が外圍には更に百四十五「エーカー」千八百町歩餘の面積を有する中央公園を設けて、附するに水晶宮又は温室花壇を以てせり。壯麗を極めたる六條の大道路は、此花園を中心として圓形の市内を六區に分ち、何れの大道路よりも常に村落の光景を望み得ることとせり。更に大道路を横斷して五條の圈狀道路を設け之が中央の第三街路をば幅員四百二十呎を有するの廣小路となし、中に六個の地所を選定して、寺院及學校の建設地に充てり。一般居住民の宅地は、總べて道路に沿ふて設けられ、間口二十呎、奥行百三十呎の長方形を爲せるもの、其數五千五百あり。工場、倉庫、市場、石炭置場、其他材木置場の類は市の周圍に沿ふて之を設け、周環鐵道は市の外圍を一週して之と相面し、更に支線を出すこと二條耕作地帯の一を貫通して相交又

し、本線に聯絡して貨物の運搬に便し、之に依りて、貨車來往の爲め、市内の道路を破損することなからしめ、鐵道線路の外圍は、總べて一帶の農耕地となし、分貸農園、大小耕作地、果樹園、牧場、森林を便宜の地位に配して、農學校、工業學校、小兒保育場、病院、盲啞院、煉瓦製造場、癩癩養生院等をも、其間に點在せしむ。

ハワードの設計は此の如くにして圓形の設計を選みたりしが、別に新意匠を加へてハワードよりも更に一機軸を出せるもの、凡そ二種あり。一はバッキンガムの考案にして、全體の地域を方形となし、格子形の道路を之に開きて、對角線に二個の道路を設く。此對角線をなすの道路は、バッキンガムの最も誇りとする所にして、空氣流通の點に於てはハワードの設計よりもセンチットの設計よりも更に優れりとせられ、センチット自からも亦之を認めたり。是の故に若し重きを空氣の流通に置くものとせば、バッキンガムの計畫や固より完全無缺と稱すべきものならんも、もと田園都市なるものは、普通都市に於けるが如き人口の密集を避け、之が家屋構造の如きも、亦大厦高樓の覺を接することなく、且諸所に空地を設けて鬱葱たる樹木を植付くるものなるが故に、空氣の流通に就きて

はさまでに憂慮するを要せざるべし。更に交通の點より見るも、パッキングムの設計或は利便多きを疑はず。されど土地の利用を缺きてまでも此の如き餘分の道路を設くるの必要は固より之を認むる能はず。さればセンホットも方形の田園都市には、唯格子形の道路を設くるを以て足れりとし、對角線の道路を加ふるは、徒らに土地の利用を傷ふものにして得失相償はざるものとなせり。

田園都市に關する大體の設計は、此の如しとするも、内に設けらるべき住宅及庭園の形狀は、如何なるものを選ぶべきか。パワードは夙に長方形を採り、現にバルンビールに在ては、此設計に倣ひて何れも長方形を採用したり。唯パワードは、一戸の面積を劃定して、十分の「エーカー」(四畝歩強)と爲せるも、バルンビールに在ては之を六分の「エーカー」(七畝歩弱)と爲せり。センホットも亦面積に就てはバルンビールに於ける六分の「エーカー」(七畝歩弱)を以て適當なりと爲せども、長方形の宅地を設くるは、徒らに四隅の空地を生じて、土地の利用を顧みざるものなりとし、別に蜂窩の各房一として其利用に缺く所なきを範とし、六角形の宅地を設けて、土地の利用を完うせんことを期せり。

設計企畫の時代は此く如くにして一轉し、既に實行實施の時代とはなりぬ。機運は益熟して、研究も亦歩一步を進め來りぬ。是に於てか千九百二年には新に「田園都市株式會社」なるものゝ設立せられたるあり、其翌年には更に「新田園都市株式會社」の創設せられたるありしも、後兩會社を合同して、資本金も亦當初より早くも三百萬圓の巨額を算じ、夙に同一の理想を抱ける石鹼製造業者レバ、テヨコレ製造業者カドバは、實に之れが主要の資本主たり。會社は既に成りぬ。因て適當の地區を選みて、實地に田園都市を建設するの第一歩を開始せり。先づ「田園都市協會」の具案に依り、倫敦市を距ること三十四哩の地に四百六十五萬坪の土地を購入して、世に始めて創設せらるべき第一田園都市の敷地を得たり。名けてレッチウオース田園都市といふもの即ち是れなり。其地やヘルトフオルトシヤイヤの北境に位し、ヒッチンとバルドックとの間に介在して、東西は二哩に亘り南北は三哩に及べり。殊に北方鐵道の主要驛たるヒッチンの恰も傍近に當れるあり、此に分岐してケンブリッヂに通ずる鐵道の如きは、正しく此田園都市を貫通して、地區の中央には新たにレッチウオースの名を

田園都市の
給排水の
設備

冠せる停車場の設けらるゝあり、汽車の來往爲めに頗ぶる頻繁にして、交通甚だ利便多し。殊に其地勢は總べて一帯の高地をなし、海拔百六十五呎乃至三百五十呎の間に在りて、丘陵の高低相同じからざるも、地頗ぶる高燥にして健康に適するはいふまでもなし。淨水の供給も亦甚だ豊富にして、山間には一の噴泉あり、水量一日にして十二萬ガロン（二千八百餘石）を得べし。之を引上げるに蒸氣唧筒の装置を以てし、導くに鐵管の水道を以てし、之を後方ウエストンの丘上に抵たす。丘上高さ凡そ四百八十呎の地には、一大貯水池の設けもあり、以て水量二十五萬ガロン（五千餘石）を貯ふべく、貯ふるに噴泉二日分の水量を以てし、高きより低きに分配せしめて、全地區の供給に便ならしめたり。

田園都市の
自然設計
利用の利

田園都市は既に其建設地區を測定せられぬ。總面積は凡そ四百六十五萬餘坪、街道として選定せられたるは百四十六萬餘坪にして、中に空地凡そ七萬八千餘坪を存せしめぬ。之が大體の設計に就きては、勉めて人工を加ふることを避け、中央を貫流する小川蒼々たる木立も、其態様を改めずして成るべく自然を利用する方法を講じたり。かくて市の中央には公共の建物を設け、道路はこゝ

大道と
其の
裝飾

より四方に散開して各處に通せり。停車場に到るの大道は即ち之が本線をなし、無數の街路は之と相交錯して、井然たる大路小路相互に綠蔭の間を貫通し、之に面して店舗を設けしめたり。主要道路の幅員や廣きは百呎乃至百五十呎に及び、小路と雖も尙ほ四十呎乃至六十呎に上る。而かも更に道路を擴張すべき十分の土地を剩さしめ、豫じめ將來の土地購入を避くるに力めたり。道路の幅員を大にすること此の如くにして、先づ人馬の交通を便にし、更らに進みて各種の裝飾事業に着手せり。車道と歩道との間には、草を以て飾れる縁を設けて之に樹木を植へ、歩道の店舗に面する處には、細長形の花園を設けて之を裝飾し、偏へに人目を怡ばしめんとして、意匠思索を費やすこと殆んど到らざるなし。工場の建設地としても、亦中央部の東方に位せる樹木鬱葱の土地百七エーカー（十三萬坪）を選みて之に充てたり。設計の概要略、此の如し。是に於てか市區全體の設備に就きて、豫じめ人口三萬乃至三萬五千を容るゝの規模を定め、土地と居住者との限度に就きて、亦「エーカー」四反十八歩の土地に對し、市街地には平均二十三人、村落地には平均九人を容るゝの豫定を立てたり。住宅に充つべ

意、造案
の屋、其
の用構

興、施
の設、ス
の機、チ
運、ウ

の村、サ
の理、ト
想、ラ
バ、イ
の、新
農、村

き家屋の構造には殊に注意を用ひ、日光の透射を十分ならしむるはいふまでもなく、其造作にも亦數寄を凝らして、建築の趣味を深からしめんと圖れり。所謂
レ、チ、ウ、オ、ー、スの田園都市は此の如くにして經始せられ、爾來修理増築を加ふると幾回最近に及びては道路の延長も既に五哩に及び、下水も亦四哩の長さに達せり。其新に四萬圓を投じて創められし瓦斯事業の如きも、年を逐ふて盛況に向ひ、以て最近に及べり。されば人口も亦次第に増加し、印刷會社機械製造會社等の如きも、將に陸續として此市區に新築せられんとし、新都市蔚興の機運も、今は却て中外の耳目を聳動すること頗る著しきを致せり。

ハワードの設計に成れる第一田園都市は、實に石鹼製造業者レバー及チヨコレイト製造業者カドバレーの助力に依りて、既に一境の新樂園を現出せしめぬ。二人亦尋で自から考案を立て、之れを其工場に實施したりしより、二個の新田園都市は乃ち別に經始せられぬ。一をポルトサンライトの新農村となし、一をバレンビルルの新農村となす。ポルトサンライトはリバブル市を距ること三哩の地に在り、田園都市の一模範として其名中外に著る。レバーが其理想を

實行せんが爲め、巨額の資を投じて創營せしもの即ち是れなり。レバーもと極めて建築の技工を好み、夙に健康に適するの地をトして、各人の住居に適すべき恰好の家屋を造るは、人の道徳を進め、品性を高からしむるに最も力多しとの確信を有せり。其新に新農村を經營して、自己の主宰に係れる石鹼工場を此に移轉したるは、全く之が爲めなり。初めはワリントンの市區に在りて工場を營みしも、其後業務の漸次擴張せらるゝに隨ひて、工場も敷地も共に益、狹隘を告げたるが爲め、茲に移轉の決意を促がさしめたるものゝ如し。既に移轉の決意をなす。是に於てか新に地をトして、水陸共に運輸の利便あり、且職工等の供給にも十分なるべき農村を選定し、茲に廣潤なる一新地區を買收して、之を移轉地に充てんとしたり。レバーの理想を實行すべき時機は、此の如くにして方さに到來せり。

因て先づ地をマールセー河に沿へるグロムボロー湖畔に相して、漸次に二百三十七エーカー(二十八萬坪)の土地を得、事務所及工場の敷地に充てしもの十一萬坪にして、市街地に充てたるもの凡そ十七萬坪に及べり。此地やもと數條の溝渠に

の村、サ
の理、ト
想、ラ
バ、イ
の、新
農、村
施、設

市街地の
長方形の

一五坪三錢
の料用無
水信賃

依りて區劃せられ時には海潮の漲溢するを免かれざりしより、先づ埋立の工を起して之を高潮標以上の乾燥地たらしめぬ。低濕江湖の地區も爲めに一變して公園及運動場約三萬坪の一區劃を得るに至れり。市街地は其形長方形を成して長さ六百間、幅三百五十間、三條の大道は中央を貫通して、十五條の小道路は何れも溝渠に沿ひ、縦横に駢行して四方に走れり。道路の左右には列ぬるに植樹を以てし、透迳たる堤塘又は優雅なる橋梁の數箇村を連絡するあり。普通の道路は幅員を四十呎とし、左右の兩側には、八呎の歩道を作り、中央には四間の車道を通せり。其大なるものに在ては、車道六間、兩側の歩道各十呎に及ぶものあり、道路の總延長は實に三哩半に達せり。土地は之を二十五區に分ちて之が十二區をば住家の建築地に充て、六區の地所をば公共の設備に供することとし、其他の七區は空地として之を存せり。各區劃には周らずに道路を以てし、道路には一方に各家屋を面せしめ、他方には空地と相連接す。各家屋の後方には方形の庭園を設け、之を職工に分貸して其使用に供し、一個年の貸賃は七坪に就き僅かに六片(邦貨二十四錢)の割合を以てし、用水の如きは全く無料にて自由に之を

清酒たる
旅館の
種雅なる
住閑る

寺院及學
校の配置
中心

種雅なる
樂新なる
設備

使用せしむ。此の如きの恩典は實に該村の特徴ともいふべき所たり。

人一人たび此地に入りて旅館に投せんか、其建築の華麗なる、室内裝飾の瀟洒たる、毫も身を農村の旅店に置くの感あるとなく、殊に一切の酒類を販賣せざる如きは、旅客をして寧ろ心安からしむるものありといふ。若し眼を玻璃窓外に放たんか、園を透らして相連るの住屋は何れも閑雅なる建築にあらざるなく、宛然たるスレー古村の景致を存して、一幀の畧畫にさも似たり。中にも新築せられし寺院は、塔宇巍峨として高く青緑の中に聳え、美麗なる二個の校舍も亦其間に駢立して、等しく訓育の中心たらんことを期せるものゝ如し。一は女學校にして裁縫と醫學とを教へ、一は小學校にして千五百人の兒童を收容し得べく、訓育風化に關する各種の會合は屢、此に催さるゝをを例とす。更に去て市街に到れば、青年の子弟が體操場に集りて運動に餘念なきもあり、或は天幕劇場に入れる士女が嚶曉たる音樂に耳傾くるもあり、白く塗れるグラッドストーン館、青く彩れるヒュルム館の庭園又は社交俱樂部の芝生に兒童の嬉々として遊戯するもあり、さては二百坪にも餘れる化粧室ありて、そこに儀容を正しつゝ、薔薇色を帶

びたる顔麗はしく、清楚たる衣服を纏ひつゝ幾多士女の出て来るをも見ん。晝間營々として工場に働ける労働者が既に其業を終りて竟日の勞を茲に慰め更に清新なる家庭に歸來する楽しき夕景を偲ぶには、蓋し餘あらん。其れ如何ばかり都市の労働者と其趣を異にするやは語らざるべく問はざるべし。若し來りて此光景を目撃したらんには、何人も身の樂園に入りたるを覺へん。女學校に面して商店あり、雜貨呉服、小間物、食料品等、日常必需の諸品皆備はらざるなし。而かも此等の商店は總べて之を組合の事業となし、職工自身の經營に依らしむるが故に、良好なる物品をば低廉なる價格を以て、容易に買ひ需むることを得べし。

軒を駢ぶるの家屋は、合計六百戸を算じ、内十二戸は稍大にして、係長ともいふべきものゝ住居に充て、其他は總べて同一模型の小家屋にて、唯多少其高さを異にするのみ。初め此等住居の型式を定むるに當りては、道路に面して墻垣を設け、庭園を附屬せしむるの計畫なりしも、今は其前庭を會社の所有に收め一週三片(邦貨十二錢)の賃地料を徴せり。此等標準家屋の構造を通覽するに、階上に

ボルト、
トウライ、
サウライ、
トウライ、
ボルト、
特微家屋の

は三箇の寢室を備へ、其一は家の前方に面して、他の二は後方にあり。階下には居室、臺所、浴室等を設けて、附屬するに物置小舎を以てす。各戸何れも方形にして、玄関は道路に面し、廊下は二階、浴室及臺所に四通せり。建築の材料には、多く煉瓦又は瓦を用ひ、木材は單に裝飾用として之を安排せるに過ぎず。各戸の間口は十八呎にして、奥行二十四呎、庭の周圍を各二百呎とし、各室の面積をば平均百二十方呎となせり。聞く此等の家屋を建築したる十三年前の千八百八十八年に在ては、一戸の建築費も平均二千圓に過ぎざりしが、千九百一年に及ひては、同型のものを建つるにも、三千三百圓を要せりといふ。其他客室を備へたる特別の家屋には、階上に一個の寢室を増設し、階下に客室の設もあり、之が建築費や千八百八十八年には三千五百圓なりしも、今は同一のものにして五千五百圓を要するに至れりと云ふ。建設の當初よりして累計するに、此村落の建築費は前後通じて約三百五十萬圓を要したりとぞ。されど家賃を定むるには僅に地代、租税、修繕費及保存費を償ひ得るの程度に止めんと目的に出で、毫も利潤を問はざりしが、爲め、初めは一週僅かに三志を徴したるに過ぎざりしも、爾後修繕費

ボルト、
トウライ、
サウライ、
トウライ、
ボルト、
の新設農村

の漸く嵩みしが爲め、近くは増して五志を徴するに至れりといふ。念ふにかくも廉價の賃料に依りて、かゝる樂園の一住居を占め得べき新農村の居住者ほど、世に幸福なるはなかるべし。

ポルト・サンライトと共に田園都市の雙壁とせらるゝは、實にバルンビールの新農村是れなり。一村の家屋が何れも丹朱の煉瓦と碧緑の石盤とを以て彩られ、茲に到る者をして自ら畫中の人たらしむとは、是れ該農村の光景を目撃したる者の常に口にする所たり。此村やもとチョコレート製造業者カドバレーの經營に成れるものにして、其地やバーミンガム市の近郊に位し、所有の大工場と相近接す。以て初めより此大工場に接近したるの一地をトし、茲に創設せられしものたるを見るべし。されば其初めやカドバレー自らも其手を下して之が經營に従事したりしに、今は其一切を擧げて之を組合の事業に一任し、諸般の用意亦極めて周到なり。随ひて當初の計畫は一として實行せられざるなく、殊に重きを各人の協同自營に置きしが故に、一定の規程を定め、各自收得の殘餘を積みて之を基金に充て、之に依りて其附近に就き、更に工業村落に適するの土地を

バルンビールの
新農村の

購入して、將來の發展と擴張とに備へたり。

聞くカドバレーは久しく工場を主管し、僱主として親しく多數の労働者に接すると多年、市の聖書講筵にも亦主催者として市民に臨みたること四十年の永きに及び、其間の經驗は竟に彼をして起て此經營に任せしむるに至れりといふ。さればカドバレーが夙に都會に於ける人口稠密の趨向益甚たしきを見、竟に「各人の精神と身體とを併せて不健全ならしめ、爲めに進取の氣力を失はしむるは全く之に基因す」との斷案を得たるは、實に其實験より來れり。是を以て混濁せる都市生活の渦中より是等の労働者を拯ふの途は、一に風光明媚なる農村を選みて彼等を茲に移し、各自をして田園生活の趣味を享受せしむるの外、他に最良の方法なきことを確信するもの亦既に久し。是の故にバルンビールの新農村を經始するにも、先づ百萬坪の土地を相して、之を新村の位置に充て、殊に意を用ひて改良家屋を新築し、添ゆるには必らず廣潤なる庭園を以てして、更に多くの空地をも備へしめたり。家屋に就ても亦決して之を賣却することなく、極めて少額の地代と家賃とを徴し、而かも九百九十九年に亘るの長期を以て之を貸付

四十年間の
經濟經驗と
鐵案方法

九百九十九年
の長期貸付
契約

くることゝしたるは、固より大に其故なくんばあらず。其意や蓋し之を賣りては管理に不便少からざるの虞れあり、さればとて貸すに期限を短うせば住む者をして其家に親むの念を薄からしむべきを思ひて、故らに之を長からしめたるならんか。其注意の到れるは、何人も之を察知するに難からざるべし。而かも是等の計畫や、もと廣くバーミンガム市居住の一般労働者を導き、之をして弊害多き都會生活を捨て、一轉して更らに清新なる田園の生涯を送らしめんとの趣旨に外ならざりしが故に、之が居住者に就きては、必ずしもカドバレー工場所屬の職工のみに限らず、總べて其近旁の労働者をして齊しく恩惠を受けしめんとしたりしより、隨ひて市の近旁より茲に移住したるものも、近くは既に五百五十六名の多きを算するに至れり。此の如くにして廣く近旁の職工労働者を救濟せんとしたりしが爲め、彼れの設計に成りし工場所屬の新村落も、後には漸次に其關係を一變して、工場も全く分離せる獨立の事業とせられ、諸般の經營も、爾來着々として其効を奏せり。其既に家を成せるの地區は、最近尙ほ豫定の三分一に過ぎずと雖も、而かも日を追ひ年の進むに隨ひて、漸次發展の緒に就きつゝあ

るは言ふまでもなし。

バーミンガムの新村落は此の如くにして建設せられぬ。地區は全體に方形を成し、道路は之を縦横に規則正しく貫通して、幅員は四十二呎、兩側に樹木を植へ、家屋は道路より稍離れし後方に在るが爲め、自ら閑雅の風致を存せり。村の中央には鬱葱たる森林ありて、一村清穆の風氣は、常に其源を茲に發し、廣やかなる散歩場、掃除の行き届ける遊戯場、さては清洒たる浴場の設けより、瓦斯、上水、下水に至るまで、何れも能く備はらざるなし。家屋に就きては殊に注意して居住者の趣向を發揮せしむべき方法を講じ、先づ家屋を二種に分ちて共同に使用せしむるものと、個々に貸與するものとの別を立て、個々に使用するものには、居住者をして隨意に之が模様替を許せり。されば居住者は各自好む所に從ひて、諸種の意匠を凝らし、造作を加へて、相互に異彩を放たざるなし。是の故に他の農村に見るが如き、單調平凡に流ることなく、毎戸に相當の特色を發揮せり。中にも食料品の商舖、郵便局、さては旅館の如きは、何れも建築に特種の技工を盡し、外觀極めて美なるものありといふ。

バーミンガム
村に於ける
農村整備の
設備の概略

家の庭園の
果樹の栽培

家の果實の
買入と補給

農村の
向上と修養

更に各家屋の周邊を見るに、之に屬するの庭園は、六百平方碼(百五十坪)の廣さを有し、居住者は皆業務の餘暇を以て、花園を作り、菜圃を設けて、互ひに其美を誇り、之を周らすには梅、桃、林檎などの果樹を用ゐし一種の生垣を以てし、各家庭をして常に新鮮なる果實を賞味することを得せしむ。各戸の需要する所固より餘剰多し。因て其野菜と果實とを搬出して、之を都市に賣捌き、收入を得ること一週平均一志十一片(邦貨六十錢)に及び、之に依て家賃の幾分を補足し得べしといふ。此等各戸の庭園以外には、別に二百箇所の分貸地ありて、所望の居住者に貸與し、園丁と監督者とは、常に之が見廻りを爲して、銳意農事の改良に勉め、村落の四周は自から一大農場を以て之を圍遶せしむ。農藝の外更らに樹栽をも廢するごなく、居住労働者の中には、別に委員を設けて、種子の共同購入を爲すの傍ら、更らに苗木の共同購入に従事するもあり、或は農具を買入れて各自に貸與するもあり、農耕園藝の趣味を養ふには殊に意を致せり。其他村民の智徳を啓沃し、各自の修養と娛樂とに供せんが爲めには、圖書館あり、公園あり、花卉の陳列場さへありて、何れも隨意に入場することを得せしめ、冬季に在りては殊に講習所

を開きて、各種の講演を聽かしめ、一として居住労働者の趣味を開發せしめ、又其品位を上進せしめんと勉めざるなし。

是れ實にカドバレーが自己の理想に基きて經始したりしバルンビールの新村にして、之を居住者の自治經營に一任するは、固より當初よりの期圖なりしかば、千九百年の末に至り、新村落の事業をば擧げて組合の手に移し畢れり。組合も亦能くカドバレーの主旨を遵奉して之に悖らざらんことを期し、先づ規約を定めて、宅地は全面積の四分一を超ゆべからずとなし、家賃は高きを貪るの要なきも、亦廉に失して恩恵に流れざらんことを期せしめ、總べてアルコール類の販賣を禁じ、販賣を許せる他の酒類に就ても、之が純益を擧げて専ら村民娛樂の資に供することと定めたり。組合は更に鐵道會社との協議を遂げて特別の連絡を圖り、交通運搬の利便を進めしと、殊に著しきものあり、且土地の貸付をも爲して、地所の利用を盛ならしめ、之に依りて開墾資金を融通し、田園諸般の經營に便せり。會堂、病院、學校、工藝傳習所、圖書館、體育場、洗濯場、浴場、其他公共の目的を有する建築物も亦、組合の設置する所に係ると雖も、殊に學校などに至りては、勉め

組合の
規約

組合の
各種
設備

て宗教の勢力を及ぼすことなからしめ、最も注意して偏狹猜疑の弊習を避けしめんことを期せり。組合の事務は一に州郡慈惠委員の監督を受くるの外、毫も宗教並に政治の關係を有することなく、普通の町村以外、劃然として一の別區をなせり。此の如きの樂境は人の争ふて居住せんことを願ふべき所、是を以て創立日尙ほ淺しと雖も、住家には一の空屋あることなく、借家人等も亦總べて其居に安んじ、萬止むを得ざるの事情あるものゝ外は、何れも之を去ることを欲せず、若し一戸の空屋を生せんか、四方來集して之が借入を懇願して已まざるの盛況を呈せり。是を以て既設の地區も既に其狹隘を告げしかば、近くは更にバルンゼール村に二倍せるの地所を求めて、別に新村落を設計せんとするの意あり。既設の新村落を以てするや、其成績亦既に歴然たるものあり、千九百一年の死亡率が千人に對する約八人の比例なりしに徴せば、如何に居住者の天祿を多からしめたるかは、固より多言を要せざらん。宜なるかな死亡率のかくも低きを致せるは、州郡の衛生委員が該村落の一特徴として、最も誇稱する所なりといふことや。

減死の特
色たる
の
バルンゼ
ール村
の村落

此の如くにして田園都市を研究し、又之を實行せんとするの計畫は、英國實に之が率先者を出し、と雖も、今は英國のみ獨り其名を擅にするを許さざるの狀あり。近くは歐洲大陸に於ても亦『田園都市協會』なるものゝ各地に組織せられしあり、獨逸の如きは、之が本部を伯林に置きて、支部を各地に設け、相互の氣脈を通じて、研究と設計と兩つながら往々にして先進者を凌駕するの概あり。佛國にも亦同種の協會ありて、其數こそ尙ほ少きを免かれざれ、最近の機運を察するに漸を追ふて活動の見るべきものあるに似たり。現に白耳義和蘭にまでも支部を設置して、之が獎勵に勉むといへば、將來の隆昌や固より刮目して視るべきものあらん。

今歐洲の大陸に在りて、田園都市を經營したるものゝ中に就きて、之が白眉とすべき一範例を擧げんに、先づ普露西エッセン市の「クラブ」鐵工場が職工の爲めに經營したるものを推して之が尤となさざるを得ず。其規模も亦頗ぶる宏大にして、大陸の諸國多く其類を見ざる所なりといへば、其壯觀や寧ろ想像するに餘りあらん。聞く「クラブ」工場に雇用せる職工の總數は、實に一萬二三千を算じ、之

歐
洲
大
陸
に
於
て
の
田
園
都
市
の
趨
勢

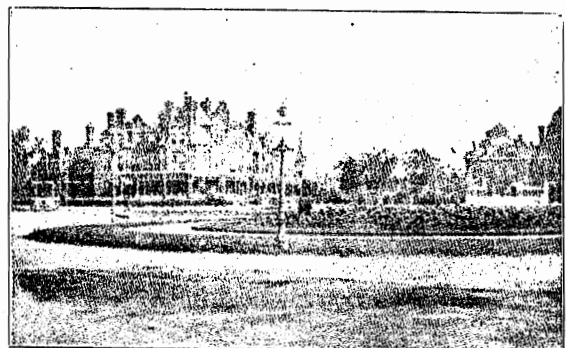
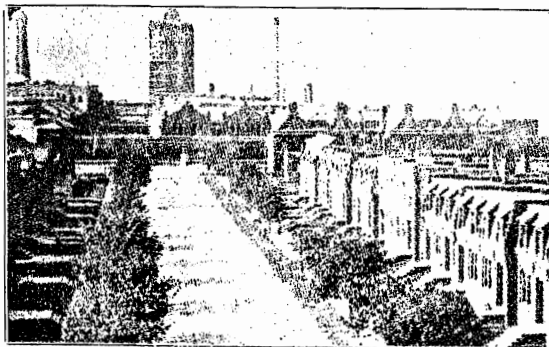
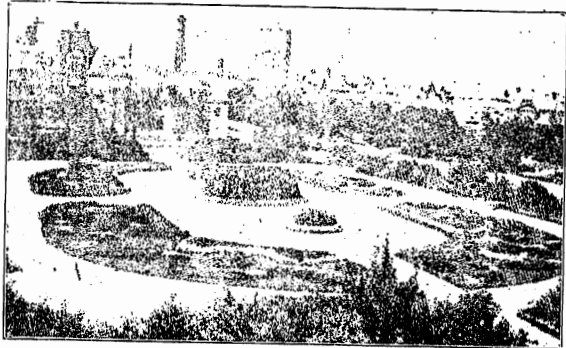
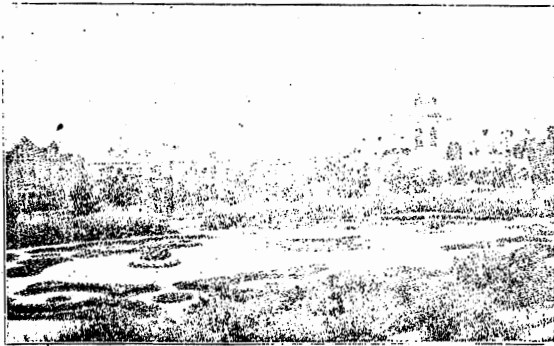
歐
洲
大
陸
に
於
て
の
田
園
都
市
の
範
例

に其家族を合算するときは、總員無慮六萬人の多きにも上るべしといふ。されば場主たるクルップは、夙に職工及家族の生活状態を一新せんことを期し、乃ち廣潤の一地區をば工場の附近に選みて、一の『職工農村』を經營せり。居常殊に職工の生活に就きて深き同情を寄せ、又最も惻隱の心に富み、あらん限りの力を盡して、多年職工の改善に努めしことは、世の既に知る所なり。もと獨逸には詭激なる社會主義の唱導者頗ぶる多かりしが故に、之が思想の傳播も亦殊に著しきものあり。數多の工場も勢ひ之が感染を免かれずして、資本主と職工との間には、常に多少の紛擾を絶たざりしに、獨りクルップ工場のみは、和氣藹然として、毫も粗厲の態あることなく、各自の交情も亦極めて温かにして、恰かも一家族の如く、嘗て怨嗟の聲を聞きたることなしといふ。此れ豈に工業主が溢るゝばかりの同情を寄せ、先づ自から進みて、百方職工の保護訓化に苦心したるの賜にあらずして何ぞや。

千九百四年十一月の事なりき。場主クルップの訃音一たび全工場に傳へらるるや、六萬の衆は男女となく、長幼となく、皆父母を喪へるが如くに悼みつゝ、弔意

和職のクルップ
工同情親と

人職のクルップ
の工訃音と
働六萬と
突萬と



景光の市部園田シマルプ國米
院寺及園公 館旅及園公
屋長工職總棟 館旅及園遊央中

職工の
生活の
改善の
ための
模範
工場
建設

職工の
生活の
改善の
ための
模範
工場
建設

職工の
生活の
改善の
ための
模範
工場
建設

を表して一時は殆んど戶外に遊歩するものゝ跡を絶てり。されば平日満員を告げぬことなき圖書館も爲めに甚しく閱覽者の數を減じ、全館閑として寂寥の觀を呈せりといふ。哀悼それ此の如し。以て如何に恩誼の深く人心を懐かしめたりしかを見るべし。グループが意を職工の保護に用ゐしこと固より世人の企て及ばざるものあり、先づ躬ら職工の家屋を研究して、百方思索の餘遂に『模範の職工家屋』を工場の傍に建築し家具一切をも備へて之が標本を示さんとせり。『職工農村』は即ち此模範家屋に依りて建設せられ、各家屋は何れも一定の規模に限ることなく、毎戸収入の程度に應じて、大小各其趣を異にせしめ、一に各自の便利を圖りて、諸般の設備を講じ殊に住宅に接續して、必らず一の花園を設けしめ、之に依りて人々の心神を娛ましめ、更に菜園を添えしめて、新鮮なる野菜を調理することを得せしめたり。以て其設計の如何に趣味津々たるものありしやを想見するに足らん。而かも用意の周密なるは、單に此の如きに至らずして、更に獨身者の爲めには、特に寄宿舎をも設けて、家庭の楽しみに代へ得べき各種の娯樂を備へ、之に依りて職工等が閑時不善を爲すの途なからしめたり。獨り

職工に對してのみならず、彼等の子女に對しても、家政學校の設けありて、將來の家婦を養成するにも心を用ゐざるなく、其他實業學校ありて、職工子弟の訓育に勉め、加之圖書館を設けて、一般知能の啓發と精神の慰安とに資せり。慰安院を設けては不具者、癱疾者若くは鰥寡孤獨にして、他に頼るなきものを收容し、恩給又は扶助料をも給して、其餘命を全うせしむ。共同販賣店を設けては、職工の需すべき日用の諸品盡く此に備はり、品質の良好なると價格の低廉なるとは、他に其比を見ず、収益の如きも、各自買入れの多寡に應じて、再び之を職工に配當するを例とせり。されば年末には職工各自も料らざる越年の資を得て、樂しきクリスマス^①を祝ひ、悦ばしき新年を迎へざるなしといふ。

頃且クラブ工場を巡見したるもの、所言に依れば、此工場に就きて殊に注意すべきは、機械の精巧なるにあらず、職工の多きにもあらず、寧ろ『職工農村』の中央に在りて、殊に人目を牽くべき一の陋屋を存すると是れなりといふ。此小屋や構造は夫の西印度に於ける土人の住家にも比すべく、屋根の低くして室内の整はざる、之を周邊の大建築に比して、其對照や殊に異様なるものあり。而かも此

小彩工ク
爾場の
屋名の
異

陋屋にして無限の教訓に富めるは、ザムダムに在て、ピーター帝が昔し船大工を習ひしといふ古小屋と共に、確かに歐洲の好一對たるべし。是れ實に工場の創立者たるクラブが始めて其鎚を打ちたる當初の鍛錬場にして、今も尙ほ其舊態を改めず、方今其盛宇内に冠たりとせらるるクラブの大工場も、もとは叢爾たる此陋屋よりして起りしとの紀念を存せしめ、衆人の爲め長へに不言の教訓を興へつゝありといふ。一以て萬事を推すに足るべし。況んや獨り家屋建築等の設備に就きて、用意の周到なりしのみならず、此等の施設に含蓄せる精神の如きも亦此の如きものあるをや。

佛國の如きも近年に至りては、都市の勞働者に對する家屋改良の問題も、亦漸く識者の研究を促がすと多く、カシメール、ペリーエの經始に係れる住宅改良事業の如きは、近ごろ殊に成績の見るべきものありといふ。されど一般に佛國の改良家屋なるものを通覽するに、夙に美術の思想に富めりと自稱せる佛人の事としては、住居の構造も甚しく美の趣味を缺き、設備も亦僅かに起臥し得るを以て足れりとするの觀あるは、殊に遺憾に禁へず。百尺竿頭若し更に一步を進め

の念研
教と個
訓不
言記

吹け佛
良る國
問題
趣處於

瑞西に於ける
田園都市

て花園庭園をも備へ、娯樂の機關をも設けて、趣味なき現在の状態を一新するに至らば、此種事業の理想とする所は、漸くにして其半を達し得るに庶幾からんか。瑞西に至りては、寧ろ佛國よりも更に一頭地を抜きたるの觀あり。其殊に推賞すべきは、セリエール田園都市として知られたるもの即ち是れなり。其地やニウシヤタルの湖畔、水利最も便なるの處に在り。「チョコレート」の製造を業とせる「スチャード・シー」會社の經營する所に係る。家屋の改良は殊に腐心を累ねし所にして、其初めに當りてや、先づ大小二種の家屋を建築し、二種共に一棟の建物を仕切りて二戸となせり。其一は四室より成りて書齋、厨房の外、二個の寢室を設け、他は六室より成りて、諸般の設備も略ぼ整はざるなし。されど職工等は其收入に願みて、住居費の更に少からんことを希ひ、家屋の隨て小ならんことを望みしかば、因て其規模を小にし、改めて新家屋を建築せり。一棟を五戸に分ちて、二戸を階下に他の二戸を二階に設け、三階にも亦一戸を置き、各戸に三室ありて、厨房一室の外、寢室と書齋とを兼ねたる二室を有するのみにて、専ら簡易を旨とせり。隨て家賃も亦頗る低廉なるより、多數の職工等は、最も之を便としたりと

特色ある
修繕基金

ぞ。殊に此村の特色とも見るべきは、家賃の外更に借家人よりして修繕費を徴すること是れなり。其額や固より僅に二法半邦貨一圓五十錢乃至三法半に過ぎざるも、會社は之を基金として蓄積し、時に技師を毎戸に巡らしめて、修繕の要否を驗せしめ、若し修繕を要するときは、基金よりして之が費用を支出し、毎三年に之を清算せり。されば修繕を要せざりし家屋に在りしものなどは、多額の返金を得るが常なりとぞ。此方法が殊に借家人を満足せしむるもの多かりしは、メンチットが會社重役の言を引き、之が讚辭に代へたるに見るも、略し知らせるべし。曰く「此方法は精巧にして又周到なり。職工は己が利益の爲めにも、家屋の清潔と掃除とに注意し、家屋の維持保存は意外に能く行はるゝを見たり。而かも其借家人より徴したるの修繕基金は、往々にして再び之が全部の本人に返還せらるゝさへあり、各人を通じて之を見るも、半額だけの返還を受くるが常なりといふ」と。以て用意の如何に綿密にして、又方法の如何に有益なるやを知るに足るべし。

歐陸より轉じて米國に赴く者は、必らずアルマン車輛會社を見るならん。此

米國に於ける

市と中
の經營
の經營
の經營

會社は獨り工場の宏大を以て名を得たるのみならず、田園都市の經營も亦完備の域に詣れりと稱せらる。米人はもと自から『青年國』を以て任じ、歐洲諸國を目して之を『老朽國』と呼べり。随ひて事毎に歐洲に一頭地を抜かんとするは、即ち米人の特色たり。されば此會社も亦事業に於て、業已に歐洲の諸國を凌駕し、最も優秀の成績を示せる者の一なれど、米國一般の傾向に違ひ、自家の新機軸を出して、益、青年國の面目を發揮せずんば止まず。されば住宅改良の問題に就ても、曩に現大統領ルーズベルトが紐育州の長官たりし當時、夙に調査委員を設けて其同胞を警戒したるが如き、以て其一斑を窺ふに足らん。されど若しブルマンが之に先つこと更に十數年の前に在りて、早くも此問題に注意し、一の職工農村を建設したることを知らば、何人も必らず其識見に服すべきを疑はず。農村建設の地は、市俄古市を距ること十四哩餘、カルメット湖畔に在り、面積四百三十二萬坪を算す。ブルマンは最も經營の材幹に富み、又最も實行を貴べるの人なり。嘗ていへらく『家屋を清新にするときは、家人の靴をも衣服をも、自ら清潔ならしむることを得べし』と。さればブルマンは最も意を職工の家屋に用ひ、建築の構

の職工
の建設
の建設
の建設

造も専ら清洒を旨として、必らず之に添ゆるに庭園を以てし、四季常に花卉を絶ゆることなからしむ。果然として此に居住せる家族の服裝も、知らず識らずの中に清潔なるを致し、容貌も亦自から生氣を帯び、事物や總べて修整ならざるなく、他村の労働者に比して、一見特殊の異彩を放てるものありといふ。ブルマンは更らに職工改善の方法に關して曰く、『職工を改善するの途は、之を訓育し、之を善導して、自己の眞價を覺らしむるに在り。一たび自己の眞價を覺知せんか、自重の精神は自から其裡に生じ、職務に對しても亦自から忠實なることを得べく、僱主を益することも隨て大なるものあらん』と。念ふに此の如きは、獨りブルマンの一家言のみに止らずして、亦實に一般僱主の龜鑑なりといふべし。センチットが深くブルマンの理想と經營とを稱讚して、『ブルマンが田園都市を建てたる博愛心の核子とする所は、實に自助の精神に在り。かゝる核子には、必らず成功の萌芽を含めり』といへるは、決して溢美にあらずといふべし。蓋しブルマンは徒らに金錢品物を與へて、職工の情心を助長するを欲せず。彼は職工に與ふるに、健康にして清新なる一の部落を以てし、彼等自身をして之を利用し、以て趣味

の職工
の改善
の改善
の改善

ある新生活を營ましめんとするに在り。實にやブルマンは能く人を使ふの道を知り又能く人を活すの方を知るものと謂つべし。

此の如くにして田園都市の計畫は、獨り一片の理想たるに止まらず、今や着々として既に實行せられ、又益々其實績を擧げり。惟ふに事や爲さずして成る者なく、又爲して成らざるものなし。唯之を成すの秘訣は、縈りて一に協同一致の精神にあるのみ。されば一人にて成し難き事も、協同一致の力を以てせば、成功や必らず期して待つべきなり。老幼男女を問はず、貴賤貧富を論せず、又職業の如何に別なく、住する所の都市農村をして、何れも更に善美の域に進めしめんには、何人も協力一致して之が整美に盡瘁するの外あるべからず。チャールズ・ダウニングの所謂「此社會をして、人々の共力に依り更に善美の新社會たらしむべし」といへるは、志ある者の深く心肝に銘すべき所なり。夫れ一郷一邑と雖ども、是れ祖先墳墓の地にして、又子と孫との永く住むべきの地なれば、相互に一致協力して、萬全の法を盡すこそ當然の任務なりといふべけれ。唯夫れ田園都市の事例や、新に之を興せるものに就きて、今茲に其二三を示したるに止まると雖

成功の協同の秘訣
一致の精神

も、必らずしも新村にして始めて此の如しといふにはあらず。舊村と雖も亦能く意を體して、各之が改善に勉むるあらんか、之を美化して一境の田園都市たらしめんは、決して至難の事にもあらざるべし。若し世界の總てを擧げて、之を田園都市の精神に醇化せしむることを得ば、同胞齊しく樂園に相息ふの至美を致さんこと亦固より疑を容れざるべし。

第三章 田園生活の趣味

自然の致趣
田園生活の趣味

田園の生活や固より清新にして、自然の致趣や人に慰安を與ふると最も大なるものあり。夫の潺湲として流るゝ清き野水、さては翠綠滴るゝが如き鎮守の森、何れか一日の勞を慰するに足らざるものあるべき。されば田園の裡に各種の趣味を求めて、自然の慰樂を其家庭に收むるは各人をして本來の幸福を享有せしむべき最良の方法たるべく、更に密集せる都人を移して、田園の生活を樂ましむるは亦最も其天真を發揮せしむべき適當の道たるべし。況んや自然の致趣に加ふるに、更に人工に依れる各種娛樂の設備を以てするをや。之を都市生活の煩劇にして、乾燥無味なるに比せば、田園生活の趣味津々たるは、固より同日の論にあらず。都市に冠するに、田園の二字を以てせるは、必竟此理想を表彰せんとするに外ならず。

田園都市の實行と

されど都市の生活をなすと既に久しき都人を移して、田園の業に従はしむるは、果して好成績を望み得べきの事なるか。夙に英國に在て一種の田園都市を

カドバレーの實驗談

實行せる「チョコレイト」の製造業主ジョージ・カドバレーの實驗談は、以て此問の解答に充つべし。カドバレーは其創始に係りしバルンビールの新農村に就き自ら語りて言へらく、「人は言ふ、都市の住民は、直ちに田園の業務に従事し難しと。されど我バルンビール村の實驗したる所に依れば、毫も此の如きの感を懷かしむることなし。此に居住せる職工等は、互に相協力して、花園の經營に従事すれば、各自所屬の大工場に向ては、未だ嘗て何等の助力を仰ぎたることあらず。彼等は都市に在りてこそ、從來土地耕作の機會を得る能はざりしなれ、今や新たに此恩惠を得たりとて、何れも満足の意を表せざるなく、若し懈怠等の爲め、別に小作人を雇ふの必要を生じ、延いては此恩惠を奪はるゝが如きことあらんか、各自の不面目や、此上なかるべしとて、何れも力行して耕作に従事し、都市に住すること數十年の久しきに及びし人々すらも、尙且一旦此に田園の生活を營みし以來は、其趣味を感ずること、之を從來田園に永住せる者に比するも、寧ろ大に勝れるものあり。都人の來住者に就きて之を見るも、二十人中の十九人までは、相樂み相競ふて、各自田園の業に従はざるなし」と。念ふに是等の職工が勞務の餘暇を

田園生活の趣味
米住者の足

以て妻子等と共に花卉栽培の樂を同うし、夕餉終はるの後靜かに莨煙を煙ゆらしつゝ、其手に成れる草花野菜の生へ繁れるを打ち眺むるの時、如何に心神を慰むるものあるべきか。かゝる機會の日夕に得らるゝは、即ち田園都市の一特徴たりと謂ふべし。

然り都人の生活状態をば根柢よりして改良せんとするには、固より田園都市に若くものなかるべし。されど都人をかくも郊外の地に移して、新たなる農村を造らしむるは、實際には尙ほ汎く決行せしめ得ざるの事情なきにあらず。是の故に先づ市民をして、郊外に土地の分貸を受けしめ、都市の住居と分隔しながらも、能く各自をして田園生活の趣味を覺へしめ、之に依て乾燥なる彼等の生涯に、相當の慰樂を與へ、疲勞せる彼等の心身に、新鮮なる活力を加へしむるは、亦實に田園都市の一要件たらずんばあらず。此の如きの實例や、之を英國に徵するときは、同國ノツチンガム市に於ける土地分貸の如き、蓋し其一なり。遠くヂヨソンの時代に在て、當時の市尹が夙に王室より拂下げを受けたる農園の、今に尙ほ市有に屬せるものゝ少なからざるは、即ち是れなり。目下同市公營の『職工園』

の植都
分と人の
貸土の
地移

施と職
設園工
室園の
のの

として市民に分貸しあるものゝ如きも、亦其一部なりといふ。此等分貸を受けたる職工が之に依りて利益と趣味とを得るの頗ぶる大なるは、固より言を待たずして、借地期限の年々に變改せらるゝをも顧みず、何れも安んじて此地に留まり、且年々甘んじて多大の資金を其地に投じ、毫も去るの意なきに見るも、如何に職工等の利便を大ならしめたりしやは、自から明白ならん。中にも職工にして此等の地區に整頓せる墅舎を建築せるあり、或は花卉に充てる自用の温室を設けたるあり。休暇の日には何れも茲に來遊するを常とす。温室には四季を通じて種々なる奇花珍卉の培養せらるゝあり、花園に設けられたる墅舎には、庖厨の設けさへあり。新鮮なる野菜の料理は晚餐の膳に上りて、都市に得難きの風味を賞せしめ、かくて積日の疲勞を茲に一洗して、再び銳氣を鼓し、勇んで其職務に従事することを得せしむ。

其他單に土地を分貸するに止めず、更らに進んでは、廉價にて之が所有權を移すの實例も亦少からず。同じノツチンガム市なるボルチェスターの分貸園は、即ち其一例にして、私人の經營に係り、面積凡そ二百町歩。もと一工場主の所有

權土分
の地所
移有
のの

に屬したりしが、分貸の初めに當りては、工場の職工を打して一圓となし、之を通じて分貸の法を行ひ、進んでは隨意に之を購買することを得せしめぬ。當時所有者は、先づ幅五間半の道路を開き、之に沿ふて分貸すべきの花園を劃し、一區の地積を百坪乃至二百坪と定めたり。地價は場所に依りて多少の相違はあれど、高さも一坪八圓を上らず、低きは二圓を出でざるさへあり。専ら道路築造の費を償ふだけの程度に止めて、其價格を定め、之を約十年間に分納せしめて、拂込の終了するを俟ち、土地の所有權を移すの方法を採れり。随ひて職工等は、遠からずして己れも亦地主の一人たうことを得べしとの觀念を抱くが故に、何れも土地を愛すること殊に厚く、全く他の分貸地に於けると其感想を殊にし、田園生活の趣味を感ずること、亦最も切なるものあり。人あり嘗てノツチンガム市に過ぎりて、各種の工場を巡りしに、場内何れの處にも、花を飾りて、各、其色香を競はしめたるを見、更に去て郊外に出づるや、菜園も花園も、手入れの殊に行届きたるを目撃し、始めて職工分貸園の成功自から此の如きの美風を成さしめしとを知り、賞讃措く能はざりしといふ。今此市に就きて職工の分貸園に加はれるもの

一分貸園の栽培の特色

を觀るに一花一井を養ふにも、必らず競ふて無類の逸品を栽培せんことを念とせざるなし。されば菊と薔薇との如きは、ノツチンガム分貸園の名産として、倫敦市民の賞美する所となり、一株の薔薇さへ三磅を價するものありとぞ。果樹の栽培も亦頗ぶる盛にして、自家の食用に充て、更に親戚故舊に贈りても尙ほ餘あり、其他市場に搬出せらるゝの額も亦少なからず。されど此等分貸園の主眼とする所は、單に金錢の利を收めんとするにはあらず、之が分貸を受けたる職工も亦之に依りて生産の益を受けんとするにはあらずして、寧ろ更に高尚なる思想に基づき、農事の真趣味を楽しまんとするに在り。されば各自何れも園藝の技能を競ひ、休日には必らず妻子眷屬相率ゐて分貸園に來り、種を培ひ花に灌ぎて、清閑なる一日を送るを常とす。

分貸地の効果や、之をノツチンガムの一市に見るも、尙ほ此の如きあり。されど茲に研究を要するは、各戸に配當すべき地積の大小如何に在り。分貸地にして若し小に失せんか、各自望む所の娛樂をば、十分に満足し得ざるや言ふを俟たず。之に反して若し大に過ぎんか、多額の地代を拂ふの不利あり。されば中庸

分貸地と其配當の種

を得んことは、夙に識者の最も意を用ゐし所にして、先づ一戸の消費に充つべき野菜の栽培には、約五畝歩を要するものとし、更に家屋花園等の爲めに二畝歩を加へ、合計七畝歩を以て一戸の分貸地となせり。「エーカー」(約四反十八歩)を六戸に配當するの計算は、此の如くにして最も適當なりと認めらるゝに至れり。蓋し「エーカー」の土地を耕作するには、一年に三百二十時間を要するが故に、一日約一時間にて足れりとすべく、此數よりして推すときは、先づ各戸をして毎週一時間の労働に服せしむるも、一年にして優に五畝歩の地積を耕作し得べし。此の如くにして漸次に田園の趣味を深からしめば、遠からずして自ら耕作の時間を増すも亦妨げなきに至るべく、七畝歩の土地も随ひて多きに過ぎざるを致さん。

英國の工業都市にして、土地分貸を行へるもの、固より一二にして足らず。アバーデーン市四萬十には公設の分貸園二町歩あり、バールミンガム市十二萬には七町歩、ブラッドフォード市十七萬には四町歩、リीड市十三萬には六町歩、ノッチンガム市十八萬には八十町歩ありて、何れも市外の近郊に設けられ、近きは五六町

英國工業都市の分貸園



業作の徒生るげ於に内庭温校學農、かに立設の人夫クツキリア

にして、遠きも亦一里を出でず。栽培する所は花卉野菜の類を主とし、時に普通の農作物若くは果樹をも併せて之を栽培せり。ハッダースフィールド市九萬に至ては特に私設の分貸園あり、園内に無数の小住屋を設く。借る者の之を視ること、恰かも己れの住居に於けるが如く、何れも娛樂休養の場所として之に安せざるなし。其地や市を距ること僅く十町餘に足らざれば借地人には殊に其便宜多く、各自此に來りて農園を事とし、住家の離外には、あらゆる空地を利用して三葉、苜蓿、甘藍菜などの野菜又は薔薇菊などの花卉を栽培し、鮮相競ひ妍相誇るといふ。ダンデー市六萬十にも亦私設の分貸園ありて、廣さ僅に三町歩に過ぎざれど、各分貸地には、殆んど温室の設けなきはなく、花卉の栽培を以て夙に其名あり。グラスゴ市十萬七の私設分貸園は、五箇所に散在して、地積合計六町歩以上を算せり。中にもカウレヤス農園と稱せらるゝは、エスビー、アール會社の職工團體が會社より借地して之を團體員に分貸せるものなり。廣さ約一町歩にして之を二十餘坪づゝに配分し、一箇年の借地料二圓二十五錢を以て貸與し、之に野菜花卉を植へしむ。ヨーク市七萬に在りては、個人の分貸園に對する

市の分設私設
品評會
園藝分會

園藝獎勵の爲め、殊に褒賞授與の制を設くるあり。同市の「リマンロード」學校専ら其事に當りて、毎年一回園藝品評會を開き、最も良好なる野菜花卉を栽培して此に出品したる者、及最もよく分貸園を管理したる者等に對しては、學校より褒賞を與ふるの例なりといふ。

蘇格蘭の
職工組合
分貸園の
各種の

分貸園の英蘭に於けるや、公私兩設の共に觀るべきものあること、其れ此の如し。されど蘇格蘭に至ては、公設の分貸園や尙ほ未だ遍ねきを得ざるものあり。唯「職工組合」の組織せらるゝありて、一種の分貸茲に形成せらるゝは、蓋し其一特色たるべし。地方の地主は先づ此等の團體に對して土地を貸與し、團體は更に之を區劃して分貸園となし、之を職工に轉貸するを常とす。ダンデー市なる「グリービングトン職工園組合」の如きは、千八百八十年の創立に係り、夙に實績の顯著なるものあり。初めは共同して約一町八反歩の土地を借り受け、職工園として組合員各自に花卉、野菜、果樹の類を栽培したりしが、市會議員其他有志者の之を賛成するもの次第に、少く初めは六十名に過ぎざりし組合員も、年々ならずして其數百名を超ゆるに至れり。組合の創立費も亦初めは九百圓を要したりし

グリービング
トン職工園
組合の

農園の
地品評會
志地品評會
の

が四年の後ちには全く之を償却したるが爲め、地代の如きも随ひて創立費の分賦を免かれ、近くは一坪僅かに九錢を徴するに過ぎず。創立後三年の事なりき。花卉野菜の品評會を同地に催うしたりしが、爾來組合員も奮勵一段を加へて、分貸園の此處彼處に温室を設くる者も少なからず。終には進みて毎年一回必ず農園の「實地品評會」を催うし、園藝耕作の道に長せる老農をして、親しく各農園を巡視し、之を審査せしめて、成績の優等なるものには、會よりして褒賞を與ふるに至れり。されば此等の農園を貸與したる地主等も、自から進んで年々褒賞の費用を負擔せんことを競ひ、之が爲めに農藝の獎勵も亦一段の力を得たりといふ。創立以來組合員の出入異動、固より之なきにはあらざりしも、三十年の久しき、今日に至るも、尙ほ籍を組合員に列して、其業に勵めるもの多きに見れば、團體の前途や、甚だ有望なりといはざるべからず。

既婚者
希望者の
市田の
必要

同じく蘇格蘭の一小邑「スターリングバーク」なる農園分貸組合の理事に、ロヂヤヤなる人あり。嘗ていへらく「既婚者はよし、掌大の土地なりとも、必ず之を住家の附近に得んとの冀望甚だ切なるべけれど、地代の低廉ならざるが爲め、常

に其意を遂ぐるに由なし。是の故に若し地主にして、故らに利得の多きを専らとせず、一反歩の地代を一箇年十五圓乃至二十圓として、不作の時には之を半減するが如きあらば、職工の分貸園に赴くもの必らずや踵を接すること、水の低きに就くが如きあらん。借地人も初めの一年は、僅かに自家用の野菜を栽培するに過ぎざるべけれど、追ては家庭に集會に將た病院にさては故人の墳墓にも供ふべき花卉の需要も、年々に其數を増すべければ、數年を出でずして、借地人も亦進んで温室を設け、之が爲め少きも十圓、多きは二百圓を費して、毫も惜まざるに至るべしと。此に由りて之を觀るも、都市生活に加ふるに田園の趣味を以てするの、益、都人士に必要にして、住家の周圍に農園を附設するの、亦愈、趣味涵養の良案たるを見るべし。

かくの如くして職工に興ふるに田園生活の趣味を以てし、併せて失業の救済に備ふるは、頗ぶる適切の事なりと謂ふべし。英蘭なるリーセスター市を距ること一里許なる、エーレストンの『エーレストン土地分貸組合』の如きは、此主義に依りて成れり。初め此地に製靴工場あり、規模極めて宏大にして、旺んに機械力

エーレストン
土地分貸組合
の製靴工場

を使用し、長靴の如きも之を製造するには、僅かに三時間を要するに過ぎず。規模しかく鉅大なり。随ひて職工は何れも分業の殊に甚しきものあり、單に作業の一部を助成するに止まれり。是の故に嘗て工業の沈衰に際して、多數の職工を解雇するに至るや、職工の多くは何れも機械を離れて、單獨に製靴の業を営むこと能はず、僅く十人を除くの外は、皆失業者として路頭に彷徨するの外なきに至れり。されば此多數の失業者をば、如何にして救済すべきやの問題は、識者の大に考究する所となり、遂に千八百九十二年を以て、土地分貸組合の組織を見るに至りしなり。

組合の目的とする所は、主として職工の健康を保持し、併せて土地の收穫に依りて、勞銀の不足を補ひ、又其生活の費用を減ずるとを得せしめ、之をして一旦工場を去りし後と雖ども、尙ほ能く農事を以て生計を完うするを得せしむるに在りき。是の故に組合は常に職工を戒めて言へらく、『汝等無爲にして日を送ること勿れ。各自分借の土地を耕作すること、猶ほ學校に於ける課業の如くにせよ。休日の間を廢し、飲酒の時を轉じて、之を農事に費し、汝等の家族をして、日常

農園生活の
田舎者の
生活

分貸地
の地代
は廉
宜

亦蔬菜を作らしむるときは、商人の手よりして購はんよりも、寛かに多量にして且良好なるものを得べしと。念ふに職工が此訓誠に従ひ、各自の餘力を割きて之を農事に用ゆるときは、工場より受くる各自の賃錢以外、農業に依りて得る所も亦固より少からざるべきが故に、萬一不幸にして工場を離れ、又は老衰するに至るとも、恐らくは食を得るに苦しまざるべし。

組合の分貸地、凡そ百七十二區を算じ、其總面積八町四反歩の内、二町四反歩の地は、特に家畜飼養の用に供せらる。各分貸地の大きさは、普通百坪乃至百二十五坪にして、組合より地主に拂ふべき地代は、大抵一坪二錢五厘を出でず。地代が普通の土地に比して、かくも低廉なることを得るは、組合が一切の責任を負へるが爲め、地主よりして直接各自に分貸するよりも、手數もなく危険も少なく、又隨ひて費用をも節し得べきが故なり。地代の廉なること此の如し。されば組合よりも亦一坪五錢の割合を以て、之を組合員に分貸し、地主に拂ふべき地代との差額は、之を租税若くは道路修繕費給水費、其他組合の經營費に充つといふ。

『農業變遷論』の著者プラットは、一日製靴會社の職工にして、分貸組合の理事者

プラット
の一年
日記
の成功

を兼ね、又分貸地を借地せるの一人たるゼップスに導かれて、エーレストンの分貸地を視察したるとあり。其狀況を報じて言へらく、『ゼップスは嘗て活氣に充ちたる己れ等の勤勞に依りて、舊時に比せば土地の生産力を四倍ならしめたりといひしが、其耕地を觀るに及びて始めて其言の空しからざるを知れり。僅かに五畝歩ばかりの土地によくも種々の作物を培へるものかなと、たゞ驚歎の外あることなし。馬鈴薯、豌豆、蕪菁、甘藍、胡蘿蔔、アメリカバウフウ、葱頭、苺、赤葡萄、黒葡萄の類より、さては各種の一年草、數十種の草花に至るまで生ふとして滿地に繁茂せるの狀は、頗る羨望に堪へたり』と。聞く借地人の中には、百坪の土地を耕作せる二十歳の一青年あり、晝間は製材場に雇はれて勞務に服するの身ながらも、尚ほ其餘暇を利用して自ら借地の全部を耕し、花卉野菜の類を此に栽培したるに、今や其草花のみにても、優に一箇年の借地料を支拂ひ、更らに多少の餘裕を剩し得るに至れりといふ。又一人あり、百坪の地を分借して植ゆるに、薔薇を以てし、試みに之を市場に賣出だしたるに、需要者頗ぶる多かりしかば、更に四百坪の地を得て、之が栽培に従事したりとぞ。ゼップスは最も善く農園の事に通ず。

人あり、之に對して『一人の餘業に適すべき農園の地積を幾何ならしむべきや』と問ひしに、彼れは『約八反歩を最も適度となさん、唯盛夏には多少の補助者を加へざれば、八反歩の耕耘や稍、大に過ぎたるの嫌あるべし』と答へたり。一人の餘暇に力耕し得る所、恐くば此の如きを以て最も適度なりとすべきが如し。

エーレストンの分貸地に、實績の見るべきもの多きと、略之を述べたり。されど家畜器具等の共同使用、或は生産物の共同販賣等、必要の事業にして、尙ほ未だ行はれざるものも少からず。而かも其花卉蔬菜や、自家の用に供して尙且餘あり、工場に在て既に生氣を失へる眼險も、一たび來て此等青綠色に映じなば、直ちに其光澤を回復せらるゝを常とす。加之、農園よりは一週一圓五十錢乃至二圓の所得を擧げ、之に依りて工賃の不足を補ふことを得べし。隨ひて其家族は何れも餘裕ある生活を營み、老幼共に健康を回復して、幸福なる日月を送くらざるなし。是の故に組合員は未來にも、亦洋々の希望を有せざるなく、氣力頗ぶる旺盛にして、よしや工場を離るゝことありとも、各自農夫として、亦優に其生計を支持し得べしとの確信を抱かざるなし。念ふにエーレストンに於ける分貸組合

深慮ある
農園の
分貸の
組合員
と興

の如きは、寔に深慮ある職工の齊しく模範とすべき所にして、又田園の生活が如何に自助の精神を養ふに適するかを證示するの一左券たるべし。

英人アルダーマン、ウキンフレイ等がカーリントン卿の助力を得、南リンコルン州及ノール、ブオーク州の労働者に對して土地を供給せんとしたりし、小耕地分貸事業の如きも、其効果や固より觀るべきもの多し。此計畫や、もと千八百九十二年の小耕地條例に基づきしものにして、其初めや五十四町歩の地に就き、五十六區の小耕地を設けんとしたりしも、州會は之に對して十分なる土地の供給を認めざりしより、竟に『小耕地分貸組合』なるものを組織して、新に土地百町歩の購入を得たり。其耕地を遶らすに柳樹を以てしたるより、カーリントン卿は之を『柳樹園』と名づけぬ。借地人は概ね農民にして、多くは附近の農家に傭はるゝ者なれど、此組合成つて一たび分貸を受けし以來は、其耕地より得べき純益や、一箇年約四千八百餘圓を算せりといふ。されど英國の實情に徴すれば、戸々の收入としては、固より些少のものたるを免かれざれど、此等の收入は固より本業以外の收入なるが故に、居民の生計を裕かならしむるの多きは亦疑ふべからず。

カーリントン
卿の
柳樹園

嘗てノルフオーク州なる一村の學校長が、田園生活に就き、自己の實驗せし所を述べしことあり、曰く『地方の人民は、何か故に閑雅なる田舎を去りて、熱鬧なる都會に移住することを好むか。之が原因は固より種々あるべしと雖も、之を我ノルフオーク村に觀るときは、畢竟各戸に附屬する小耕地の甚しく缺乏せるに基因するが如し。而かも此缺乏を補ふは、甚しき難事にもあらざるべし。二十町歩の土地も、五千圓乃至七千五百圓を以て之を購ひ得べく、家屋及附屬の小舎等をも併せて、亦概ね五千圓を要するに過ぎず。故に若し志ある青年等が、合同して適當の郊外地に移り、農工銀行等の力を借りて事業を起さば、管に十分の生活費を得るのみならず、其資本に對する利子を支拂ふも、亦決して難きにあらず。若し是等の諸人並に其子孫にして永久居を此地に定め、斯の如くにして各自の事業を經營するが如きならば、都市に於けるよりも、低利の資金を借り得べきや言ふまでもなく、事を爲すには益、容易なるものあらんか』と。田園生活に關する各種事業の研究者に對しては、此言や採て以て他山の石となすに足らん。

之を要するに田園都市は都會に密集せる職工を移して、全く新たなる一農村

を造り、之に土地を分貸して、工業に従事するの餘暇を利用し、併せて農業生活を營ましめんとするに在り。されど土地分貸の事業や、必ずしも新たに農村を造るとなしと雖ども、現在の市民に對して、農業生活の利益と趣味とを興へ、自然と相接觸せしめて、乾燥せる生活を和げ、之に依りて田園都市が豫期する所の一端を行はんと期す。されば土地分貸の事業は、之を散點せる一の田園都市とも見るべく、其聚團を成すに至りて、爰に始めて眞個の田園都市を現出するとを得べし。而かも兩者の何れに依るとも、田園の趣味が、如何に生活状態の改善と品性の向上とに與かりて力あるかは、固より之を知るに難からず。唯夫れ泰西諸國の此兩事業に於けるや、其根源は主として工業生活の缺點を補はんとするに出でたり。是の故に多くは職工問題を解決するの必要に促かされざるはあらず。されど事業の成績よりして之を見るときは、延いては都市の改良問題ともなり、又農村興新の問題ともなり、其關する所誠に廣且大なりと謂はざるべからず。念ふに人生に尙ぶ所や、單調なる活動にはあらずして、寧ろ多趣なる生活に在り。乾燥無味なる勤勞にあらずして、主眼とする所は、全く勤勞に交ゆるに訓

育と趣味とを以てするの點に在り。蒸氣と煤煙とに満ちたる工場の勤勉力行のみにあらずして、鳥歌ひ花笑ふの田園に就きて其心身を休養するは、人生に缺くべからざるの要件たり。田園都市の理想とする所は、即ち此に存せり。唯其事業の方法と運用とに至ては、時に依り所に應じて、固より多少の差異あるべしといへども、之に依りて生れし幾多新生活の實驗が何れも有益の教訓を示めざるなきこと、今亦嘔々を須ゐず。因て知る、工業生活と農業生活との二者が、長短相補ふて其用を完うし、一の新興は他の發揚を促がして、共に世の進運に應じ、茲に始めて健全なる人文を遂げ得べきことを。此の如くにして一國の都市と農村とが、二者互に前導者ともなり又後援者ともなりて、共同一致の發展を爲すに至らば、文明の經營や、漸く遺憾なきを得るに庶幾からんか。田園都市の精神とする所は、即ち此の如きに外ならず。

第四章 住居家庭の齊善

都市といはず、農村といはず、住居はもと一切の單位たり。されば之が齊善を圖るは、亦田園都市の創設者が最も其意を用ゐし所に係りぬ。念ふに剛健なる精神は健全なる家庭に宿り、健全なる家庭は常に整頓せる住居の中に形成せらる。されば良民を作くるの途は、先づ家庭を改良するに在り。家庭の改良は亦實に住居を齊ふるを以て第一義とす。是れ古來何れの國に在ても、最も家屋の改良に腐心したる所以なり。唯從來は専ら衛生の見地よりして、之に注意したりしに、今は進んで國民の風化を進めんとの見地よりして、同じく力を此事業に用ゆるもの所在漸く多きを致せり。抑、多數民衆の小區域に群居するは、勢ひ彼等をして不完全なる家屋に生活するの止むなきに至らしめ、隨ひて常に身體の衰弱を招かしむるのみならず、併せて獨立自營の精神を喪失せしめ、延いては其家庭を紊さしむるの虞なきにあらず。

今夫れ一般の都市を通覽するに、初めよりして豫め大都市經營の規模を定め、

田園都市終

3188

7

明治四十一年四月二十八日印刷

明治四十一年五月一日發行

(定價金五拾錢)

內務省地方局有志編纂



發行者

中村新太郎
東京市四谷區坂町九十八番地

印刷者

市川七作
東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所

博文館印刷所
東京市小石川區久堅町百八番地

發賣所

東京市日本橋區
三丁目八番地

博文館